

2022年度

巖崎寮誌

佐藤・新渡戸記念寮

創立 95 周年

# 巖鷺寮誌

2022 年度

一般財団法人巖鷺寮

巖鷺寮一心会

*Be social, be gentleman.*

(解説) 巖鷲寮の創立以来のモットー。後半部分は札幌農学校のウィリアム・スミス・クラークが1期生に与えた言葉を佐藤昌介が伝えたもので、学寮(恵迪寮)のモットーと共通している。この後半部分は“be gentlemen”でなければならないという指摘もある。

## 2022 年の巖鷲寮

寮長 山下 晴海



2022 年度後期の寮長を務めております山下晴海です。

2022 年度は、2 年ほど前から蔓延している新型コロナウイルスとの共存の道を模索した 1 年だったのではないのでしょうか。大学では、授業も部活動もほぼ通常通り行えている状況です。私は明日、2 年ぶりに札幌の大通りで開催されるミュンヘンクリスマス市に行く予定があり、今から非常に楽しみです。

寮内では、感染対策は以前と同じように行っておりますが、寮生の外出が増えたように感じられます。私が入寮した 2020 年とは言えば、授業は全面オンライン、部活動も禁止、不要不急の外出も禁止、と、寮生は寮内にこもる日々でした。外出しているかがわかる玄関のネームプレートは、いつもみんな白色（在寮）で、コロナ前を知る先輩は「こんなにみんなが寮にいるなんて信じられない」などとぼやいていました。現在では、平日の昼間などは、ほぼ赤色（外出中）です。みんな外出できるようになったんだなあと、感慨深い気持ちで眺めています。

コロナ禍では、寮内にいる時間が多かったため、おのずと寮生間の交流が深まりました。オンライン授業の受け方から、電球の交換の仕方まで、いろいろなことを相談し、助け合って来ました。現在は部活動や学部など、寮外でも交友関係を築くことができるようになりましたが、今でも寮生同士の交流は盛んです。大変な時期を一緒に乗り越えた仲間には代えがたいものがあります。また、コロナ禍で形成された寮生同士の仲の良い雰囲気が新しく入ってきた後輩たちにも引き継がれているように感じます。

最後になりましたが、寮誌を作成するにあたってご協力いただいた皆様、さらには巖鷲寮に携わり支えてくださっているすべての皆様がこの場を借りてお礼申し上げます。☺

## 2 という数字にまつわるエトセトラ

一般財団法人巖鷺寮  
理事長 昆 泰寛

財団法人「巖鷺寮」は昭和2年(1927年)に設立、2022年度の寮祭式典(11月23日)で95周年を迎えました。そろそろ創立100周年の声も聞こえ始めてくる時期到来でしょうか。この中央区北7



条西18丁目に佇む本寮は、現在は佐藤・新渡戸記念寮と呼ばれ、新築・再開寮から実に23年を経過しました。来寮者は20年以上の年月を経過した建物とは思えない旨の感想を述べられます。これも日頃の寮生ならびに寮母さんたちの献身的な努力の賜物と感謝に堪えません。本寮の前身である「巖鷺寮」は岩手・青森両県および旧南部藩寮(秋田県鹿角地方)出身学生を収容する郷土寮として発足しましたが、現在は全国から寮生を募集し現在に至っています。

初代「巖鷺寮」は北区北8条の突き当たりの、今で言う西7丁目界限にあったと聞きます。今年(2022年)の春はこの界限で2つの出来事がありました。一つは、北海道マガジン「カイ」の北大南門エリアヒストリーに初代「巖鷺寮」の解説が載せられたことです。ネットでググるとすぐに記

事を見つけることができます。そのエッセイ中には、初代寮が岩手県出身者の郷土寮として 1927 年 11 月に完成したことを紹介しています。その後、1957 年札幌市の北 8 条通り延長計画に関連して、北側に新築（第二代）、さらに 1969 年に北 7 条西 18 丁目に移転（第三代）、1999 年に同地に新築されたことが記載されていました。“Be social, be gentleman”（人と交われ、紳士たれ）」のキャッチフレーズとともに、古き良き時代に快適な寮がそこにあったことを思い起こさせてくれます。必見です！そして、今年度に退寮する桔梗原遥大くん、宮本 玄樹くん、安齋 暢仁くん、山下晴海さん。第四代寮に新たな足跡を残してくれたことに感謝します！

北 8 条西 7 丁目界限で起きたもう一つの出来事は、「カイ」では語られていなかった南門エリアの老舗「そば処みず木」から火災があったこと。4 月 6 日夕刻のことです。私が学生の頃(1970 年代)からあったお店でした。昔は店の真ん中から木が生えていたように記憶しています。食べログには、「風情のある佇まい」「しっかりしたコシ」「女将の優しさにホッコリ」など、一度は食べてみたくなる感想がたくさん載っていました。火災後、どうなったのか通勤途中に遠回りして見に行きましたが、駐車場になっていました。変化していくことは時代の流れで仕方ないことですが、おいしいお店があった記憶だけは留めておきたいものです。ちなみに、私は「みず木」で食事したことがないと思っておりましたが、独身のころ今の家内とお食事デートしたことがあったらしいです。記憶とは、ときには変化するものかもしれませんね。

世界的な大きな出来事も 2 つあります。一つは相変わらずのコロナパンデミック。2020 年 2 月の札幌雪まつり直後から我が国に蔓延し、この年の送別会を最後に、寮の行事は簡素化を余儀なくされました。現在、北海道は第 8 波の真っ最中で、道内でも 1 日 1 万人の感染者が続いています（2022 年 11 月末）。人間さまの対応策も進歩しており、ワクチンは早い人で 5 回目の接種券が配られ、飲み薬「ゾコーバ」が緊急承認（北大人獣研

とシオノギが開発) されるに至っています。アルファ株からデルタ株へ、その後、オミクロン株へと、感染力が増大したものの重症化率は漸減しているようです。重篤なパンデミックを引き起こす次のタイミングはいつなのか、この一進一退の状況で、なかなか以前の寮式典に戻す勇気がないのが正直なところでしょう。気兼ねなく寮生諸君と料理を頬張る時代に期待したいものです。

もう一つの世界的な出来事は、ロシアによるウクライナ侵攻。2022年2月24日、ロシアはウクライナへの侵攻を開始しました。実は、2014年のクリミア半島の一方的なロシア編入宣言から、戦争の火種は続いていたようです。加えて、ロシアは勝手なプロパガンダを作り上げ国民に事実を伝えず、世界各国はロシアを非難し経済制裁を続ける毎日。ロシアによるウクライナ侵攻は長期化する様相を見せ、お互いどちらかのリーダーが失脚しない限り終わりを遂げることはないのかもしれませんが。ウクライナ侵攻はあらゆる物の値上げラッシュの一因ともなっています。小麦粉、原油、各種加工食品などなど、私たちの生活に深く影響しています。2023年4月から、とうとう寮費の値上げも踏み切らざるを得なくなりました。在寮生の皆さんにとっては契約違反となってしまいますが、現状をご理解いただけると助かります。

そういえば今年度の新入寮生も2人でしたね。浅井海晴くん、地紙翼くん、歓迎します。佐藤新渡戸記念寮の新しい歴史を作ってください。

☺

前ページの写真 2019年5月、花巻市宮沢賢治記念館にて。事務長になったつもり。

# 2022年度巖鷺寮誌

## 目次

巻頭言 2022年の巖鷺寮	寮長 山下 晴海	・ i
2という数字にまつわるエトセトラ	理事長 昆 泰寛	・ ii

### 〈特別寄稿〉

俳人豊山千蔭（昭和13年卒寮）のこと	大久保 勉	・ 1
「文学」を育み「文化」をつなぐ		
岩手の戦後を変えた作家・鈴木彦次郎	黒沼 芳朗	・ 13
放射線の利用とリスク	中島 宏	・ 17
焼尻島の歯科診療	本多 丘人	・ 26

### 〈エッセイ広場〉

第66代オホーツク総合振興局長に就任しました	中島 和彦	・ 39
インフレの損得勘定	高橋 元氣	・ 41
好きなロケットは何ですか？	佐藤 剛	・ 47

### 〈寮生のページ〉

#### 寮生近況

	53		54
	55		57
	58		59
	60		62
	63		64
	66		67
	69		70
	71		72



〈一心会のページ〉

もと巖鷲寮生による談話会での句会の紹介 .....	吉田 春雄 ... 74
一心会の Zoom アプリをご利用下さい .....	75
巖鷲寮一心会について .....	76
[付録] 巖鷲寮一心会規約 .....	77

〈法人のページ〉

2021 年度事業報告書 .....	79
資料 1：2021 年度損益計算書 .....	83
資料 2：一般財団法人巖鷲寮定款 .....	84
資料 3：一般財団法人巖鷲寮規則 .....	91
2022 年度一般財団法人巖鷲寮役員名簿 .....	93
寮日誌 .....	94
2022 年度寮生名簿 .....	95
編集後記 .....	96



表題題字：佐藤 昌介（男爵、日本初の農学博士、北大初代総長）

カット：板橋 咲奈

# 俳人豊山千蔭(昭和 13 年卒寮)のこと

大久保 勉

## はじめに

巖鷺寮の先輩・後輩と行っているバーチャル談話会(2021年度巖鷺寮誌 p.69)では俳句会もある。素人ながらそれぞれ5句を投稿し、鑑賞しあっている。豊山先輩は既に亡くなられているが、八戸における俳句界の長老であっただけではなく、地方にありながら重厚な風土性のある作品を発表する作家として俳壇の最高峰である現代俳句協会賞を受賞するなど、中央俳壇で一目置かれる存在であった。自分に句会という機会が生じるのだったら豊山先輩から俳句を教えてもらえば良かったなあと悔やんでいる今日この頃である。家業の林業に専念する傍ら俳句に一時代を築き、晩年失明したものの、社会福祉法人ぶさん会を設立し、障がい者の自立支援を行ってきた豊山千蔭(とよやま・ちかげ)さんについて調べてみた。

## 出生から中学まで

先祖は旧八戸藩の祈願寺である豊山(ぶさん)寺の法燈を600年保ってきた。明治維新の廃仏毀釈により廃寺となったた

め、十一世住職宥定は還俗妻帯して内丸八幡宮神主となり、豊山(とよやま)家の初代となった。千蔭の父、明治9年生まれ三代目静迩(せいじ)は八戸尋常小学校を卒業したが、青森県内に中学校が無かったので獨協中学校に進み、その後第一高等学校、九州帝国大学を卒業した。静迩は熊本大教授を経て九州帝国大学医学部教授となり定年まで勤めた。千蔭は静迩と同郷のたかとの間に生まれた2男4女の次男で、大正3年3月19日福岡県箱崎町で生を受けた。同9年箱崎町立尋常小学校、同15年福岡県立福岡中学校に入学したが、昭和2年9月、祖父・祖母が相次いで死去したため、母、兄妹とともに本籍地の八戸町に転居、青森県立八戸中学校2学年に転入学した。

## 北大

昭和6年3月八戸中学校を卒業し、北海道帝国大学予科農類に入学した。当初予科生の寄宿舎である恵迪寮に入る手筈であったが、理学部前から北17条へ移転する建設の最中であり、実際に入寮でき

たのは 11 月にな  
ってからである。  
入寮するにはどこ  
かの運動部に入ら  
なければならない。  
豊山は文武会  
水泳部に所属した。  
「種目はバタフ  
ライ・背泳だった。  
選んだのは選手層  
が薄く、全国大会  
に出られそうだっ  
たし、出場者が少  
ないので上位入賞  
の可能性があるから」との言葉を残して  
いる。

昭和 8 年度恵迪寮の応援団長を務めた。  
弊衣破帽は当時の旧制高等学校で流行し  
た蛮カラな風俗である。今に続く恵迪寮



北大生の頃、スキー場にて。昭和 8 年頃か

応援団長の弊衣破帽を豊山も経験してきたと想像するに難くない。当時の応援は太鼓も手拍子もなく、大きな旗を寮歌に合わせて左右に大きく振るだけであった。歌い方は念仏を唱えているかのように、ゆったりと歌った。豊山は晩年、酒の席で

「都ぞ弥生」や  
「南部牛追い唄」  
を自己流の独特  
な歌い方で歌っ  
たというが、それ  
は恵迪寮時代の  
歌い方だったの  
ではなかろうか。  
私達もすすきの  
で酔っばらって  
は肩を組み(支え  
合っ?)、「都ぞ弥  
生」や「春雨に濡



平成 12 年、柿木苑 15 周年記念式典で「都ぞ弥生」を車椅子で熱唱

る」の一節一節を息が続く限り、延ばしに延ばして高歌放吟しながら寮に帰ったものだから、懐古趣味かも知れないが、寮歌の正調はゆっくり歌うものだと脳に刻まれている。酒を一日5合飲んだという。恵迪寮数え歌に、「三ツトセ 見たか聞いたか北大の 恵迪寮生の飲みっぷり ソイツア豪気だね」とある。数え歌通りの破天荒な生活を送ったのだろうか。

昭和9年3月予科を卒業し、農学部林学科に進学した。農学部林学科の選択理由は定かでないが、もともと実家は八戸藩の祈願寺であったことから、青森県西海岸の鱒ヶ沢や北海道日高地方にも地所を有している記述がみられ、八戸市内や近郊だけでなく、あちらこちらに広い山林を有する山持ちだったことが分かる。それが林学への関心事かなと推測するしかない。農学部ではそれぞれの学科を揶揄して「飲み林」「ひま畜」「ブラ経」と呼んでいたが、酒豪であったことで一層「飲み林」の名を高めた事であろう。

## 巖鷺寮

恵迪寮を退寮し、巖鷺寮に入寮した。巖鷺寮での生活は明らかではない。しかし昭和2年創立の巖鷺寮は出来たばかりでハイカラ。“Be gentleman”を期待されていたであろうから、自由奔放な恵迪寮での生活と巖鷺寮での生活の落差は想像に難くない。でも出席率が悪かったという事からして、恵迪寮での生活が抜け切れ

ていなかったのであろうか。

巖鷺寮誌には豊山の投稿文が載っている。昭和9年7周年寮誌「思い出す事等」、昭和10年8周年寮誌「退屈日誌」、昭和11年9周年寮誌「筆と自然」「落穂の記」旅行部報「旅より」、昭和12年10周年記念誌「玉の箒」「けずりぶし」である。「筆と自然」には「俳句はとっつきやすく、なかなか奥深く、雅味があつて面白い。映画館などに行つて財布と目を消耗させるより、なんば経済的か。思想の表現に対する流暢さも養われ、また人生にゆとりが出来てくる」と書いている。「旅より」には道東を旅行した時の報告で、釧北峠や雄阿寒岳など、訪れた地を短く紹介し、句を書き添えている。北見海岸では「薄ら寒き風も夕日も地の果てに」とある。恵迪寮で応援団長を務める等、他人から見れば無頼と思われていたに違いないし、本人も文学とは全く疎遠、俳句は問題外と控え目に述べてはいるものの、決してそうは受け取れない。昨今の寮誌には寮生の近況を伝えるスペースも設けられている。しかし、書くことに難儀している寮生の姿が見えてくる。一生に一度の機会であり、青春を余すことなく書き残してほしい。書くことの習慣を身につけてほしいものである。

## 卒業・就職

昭和13年3月に卒業した。在学中の出席率が悪く、卒業が危ぶまれていたとい

う。しかし郷土の先輩島善鄰（しま・よし  
ちか）学長と中島広吉林学主任教授が相談  
し、「落第させるより卒業させた方が社会  
のためになる人物だから」との計らいで  
卒業した。昭和11年に二・二六事件が発  
生した。また日中戦争も始まっている。騒  
然とした時勢の一方で、長く続いた恐慌  
も景気回復の兆しが見えていて、海外も  
含めて働き手が求められている事情があ  
ったかもしれないが、なによりも応援団  
長を務めるなどリーダーシップを發揮す  
る総合的な人間性が評価されたに違いな  
い。

北大演習林に勤務し、翌14年4月台中  
州の埔里にあった北大台湾演習林に囑託  
として赴任した。コーヒー栽培の研究も  
したという。昭和17年4月台北市の台湾  
拓殖株式会社に入社した。翌18年身分は  
民間人の海軍囑託、佐官待遇で、アンダ  
マン島の木材調達製材作業に携わった。連  
日の空襲、艦砲射撃を経験し、敗戦に追い  
込まれていることを実感していたし、特  
攻隊員の出撃も目にした。昭和20年敗戦  
によりシンガポールの収容施設に6か月  
間抑留され、21年4月本籍地の八戸に引  
き揚げてきた。

## 俳句への道

昭和21年6月、嶋守静翠居氏の長女英  
子（ふさこ）と結婚。23年5月是川にあ  
る自分の持山に小屋を建て、ランプ生活  
を送りながら、開拓・植林・石材採取業を

始めた。

9月静翠居の手ほどきで俳句を始めた。  
34歳の時である。八戸は城下町であつた  
ため正風俳諧が根強い勢力を保っていた  
中で、静翠居は新しい俳句を学んでおり、  
傑出した指導力を發揮していた。静翠居  
は「俳句はこういうものだ」と決めつける  
ことはしなかった。「俳句は五七五のリズ  
ムを持つ詩で、自家の創作でなければな  
らない、新鮮でなければならぬ、人のま  
ね事や古臭いものは絶対避けるべきだ」  
と言うだけであつた。

豊山は山奥のランプ生活の中で、「もの  
や事実を繊細に見る、ものや事実は作者  
の心の動きによって微細な変化をして脳  
裏に残る、それを描写するのではなく、ある  
心の動きの瞬間をとらえて文字に表現す  
ることとし、一日一日の心の動きをその  
瞬間、映像を活写するように努めた。文学  
というものになじみが薄く、馴染もうと  
しなかった。歳時記も全然読まなかった。  
ただその時その時感じたことを五・七・五  
で作った」と書き残している。豊山は毎日  
の生活感を日記の代わりに俳句として書  
きとめていた。

## 飛躍

東奥日報社が主催する青森県俳句大会  
には現代俳壇の重鎮加藤楸邨、水原秋櫻  
子など中央の俳人が特別選者として来青、  
講演された。それに参加した豊山は地方  
の低い山の頂きに立って満足するよう

は俳句の神髄を理解しないで終わると考え、中央の結社『曲水』『天狼』『寒雷』などに頻繁に出句した。その中で、生活や自己の内面に根差したきしみや嘆きを五七五に落としこむ作風を迫及し、人間探求派と呼ばれていた加藤楸邨を師匠とすることにし、楸邨が主宰する『寒雷』に昭和26年12月入会した。楸邨の門弟には『杉』の森澄雄、『海程』の金子兜太など錚々たるメンバーが集まっていた。

入会して1年少し経った昭和28年3月号で『寒雷』の巻頭を飾った。

巻頭を飾った五句は

冬来ると通夜のごと食ふ農家族  
炉煤舞ふ馬売の話進まぬに  
吹雪く夜の羽目をへだてて馬が食む  
夜の雪の奥まり灯り馬匂う  
手のひらに溜る寒の陽手相貧し

その後、豊山は「今まではこういう感覚の時、自分の感覚をどう表現するかに熱中していたが、こういうふうにすれば巻頭になるんだなあ、こういう言葉を使いまわしていけば上位作家になれるんだなあ、と文芸作家の方、いわゆる言葉遊びの方に考え方が変わっていった。しかし、そうした考

えに因った俳句は『寒雷』の一句欄にしか載らなくなった。巻頭作家は同人欄に出句させられるのだが、他の同人と肩を並べられる俳句が出てこず、投句を辞めた。しかし、ここでひねくれたままにせず、悪かったのは何是だろう、選ばれたのは何是だろう、と考えたのが良かった。言われて落ち込んだり、ひねくれたりしたら先に伸びない。人様の言う事をよく聞く、聞いてそれを鑑賞する、鑑賞する能力が無ければ俳句は良くなる。鑑賞する能力を養うためには書くことである。書くという事は良く見るということである」と述懐している。

本題から外れるが、私たちはバーチャル談話会で俳句会を2回開催した。俳句の師匠格にも見せて評価してもらったが、やはり自分の言葉で詠んだものが一番良いと、師匠格の解説に好意的ではなかった。私もかつて地方新聞に投句したこと



加藤楸邨（左）と歓談する豊山千陰（右）、昭和51年

がある。新聞には載ったが、文言が修正されていた。私が詠んだ時の気持ちと少し違うなあと憤慨し、それ以来、作句も投稿もしなくなった。その時は素直に受け入れる気持ちが足りなかったようである。探求心と素直さは俳句を作る心がまえにとどまらず、万事に通用する教訓のようである。

## 俳壇

豊山は俳句を内なる楽しみとするだけでなく、周囲の句作にも目配りをしている。昭和26年豊山の自宅で句会が開かれたあと、句誌の廃刊が続き低迷する俳壇の再建築について語り合い、具体化として八戸俳句研究会を誕生させ、句誌の編集・印刷に中心的役割を果たした。地方俳壇ひいては地方文化の振興に物心両面から助力を惜しまなかったことが伺える。

また昭和33年には「近頃の俳句を楽しむ人に余裕がなくなってきている。結社の縄張り争い、ひとのこころを傷つけたり、狭い俳壇の中にさざなみや大波が立ったりすることがある。ただ集まって胸を開いて話して飲んだり、たまには吟行したり、心の安息とつながりが出来ればよい。それが俳句境地の向上につながればよい。」と、青森県俳壇の交流拠点として青森県俳句懇話会を設立する発起人となった。

また翌34年に懸案だった八戸俳壇の一本化を図るべく、各々の結社を解散し

て八戸俳句研究会を誕生させた。豊山を発行人とする俳誌『北鈴』が出版され、創刊のことばで、「北辺の風土の中に生活する私達のよろこびを、かなしみを、俳句を通してさらけ出す機会が、場が出来た。交流する場は大切であるが、一段と優れた北辺の風土の中に生活するたくましい俳句人を育ててゆくことに主眼を置きたい」と述べている。

『北鈴』の出版は昭和58年廃刊になるまで続けられたが、八戸俳句界の中心となった足跡は大なるもので、俳句界の芥川賞と言われる角川俳句賞に村上しゆら、木附沢麦青（きつけざわ・ばくせい）、山崎和賀流、米田一穂、加藤憲曠、河村静香を輩出している。木附沢麦青（1936年生まれ）は、岩手県立福岡高校時代から俳句を本格的に始め、昭和39年俳句の盛んな八戸に移住して『北鈴』に参加した。昭和58年八戸俳句研究会の解散、『北鈴』の終刊を受けて、昭和59年に『青嶺』を創刊、青嶺俳句会代表として120人の結社に育て上げた。

## 句集の上梓

一度は不調に陥ったが、再び『寒雷』への投句を続けた昭和35年、再び『寒雷』の巻頭を飾って同人に推薦された。『寒雷』には、特に優れた同人に対し、自立して独自の道を歩んでも良いと、主宰する加藤楸郎が推挙する「暖響」作家の制度があり、豊山も暖響作家に推薦された。会員とな



豊山千陰の句集

って10年にも満たない豊山の感性・表現力を加藤は認めたのであろう。

豊山も角川俳句賞にチャレンジしようとしたが、楸邨は「豊山の句は角川俳句賞の句ではない、句集をもって世に問うべき」と句集の発刊を勧め、句作を始めてから昭和40年まで18年間の俳句を選んできた。

昭和41年、目の治療で東北大に入院している間に、森澄雄が句集『結氷音』を作ってくれた。表題は「縄絢ひて夜の耳らむ結氷音」からとった。本句は昭和37年に発表した20句の一つで、豊山の代表句となっている。この句集発刊によって、昭和42年10月第14回現代俳句協会賞を受賞した。現代俳句協会賞は俳壇の最高

の賞である。豊山は、「当時、社会性俳句が横行していた中で、泥臭い、自然の中で生きた人間俳句がひょいとしてきたので評価されたのだと思う」と謙遜しているが、風土の中に生き、おのずから醸成された人間の感情が外部因子と接触して生まれた作者独自の心象を詠んだものと高く評価されている。

昭和30年から49年まで身边は多事多難だった。キノコ栽培、森林組合理事長就任、目の手術、根城に家を新築して移住などが重なったが、昭和38年嶋守静翠居遺句集『こがらし』、昭和39年友人窪田月章遺句集『彌』（ふいご）、昭和47年静翠居の手足となって活動を支えた伊藤麦子遺句集『花蓼』等を出版するなど、義理を欠かすことはなかった。

昭和47年妻英子が急逝した。もともと寡作であった俳句も内面的な追及となり、以前に増して多くは作ることが出来なくなった。昭和49年3月湊くにと結婚、句作の上でも心機一転を図るべく、昭和51年12月亡妻英子の鎮魂歌集『蟹の鋏』を発刊した。代表句は「蟹の鋏が硝子を擦って満月なり」で、他の追隨を許さない独自の境地に達している。

## 視力の低下

豊山の目の症状である。幼少のころから強度の近視で、7周年寮誌に「思い出す事等」として、得意な図工の授業で、写生



しようにも薄暗くて目が見えず未完成のまま提出したら、教師を馬鹿にしていると大いに怒られた話が載っている。眼鏡をかけるのが恥ずかしかったため、カンニングの疑いを掛けられた中学の時に、ようやく眼鏡をかけた。終戦後はマラリアに感染していたことが引き金となって次第に視力が衰え始め、昭和36年、網膜脈絡膜萎縮の病名で1級身体障がい者に認定された。昭和41年春秋の二度にわたって白内障の手術と網膜脈絡膜萎縮の治療をした結果、一応ある程度の視力は回復したものの、選句をする場合でも原稿に眼鏡をこすりつけるようにして見る有様だった。

目が不自由なため旅行も控え目で、せいぜい東北地方で開かれる寒雷人の集まりだったが、くにと再婚後は遠出の機会が増え、49年にヨーロッパ、50年に生まれ故郷福岡に旅した。福岡では小中学校の同級生筑紫春生氏（九大教授）に50年振りで見会った。昭和53年、くにと夫人が教員を退職後はシルクロードやインド、台湾、アメリカなどにも足を延ばし、1か月に及ぶ旅行もあった。昭和54年中国訪問の時には、上海空港で偶然にも高橋萬右衛門農学部長（水沢出身、昭和15年農学科卒、元巖鷲寮理事）にもお会いしている。

昭和56年奈良薬師寺管主高田好胤のインド仏跡巡拝行に同行してブッタガヤで詠んだ「心空なり日の出は霧の彼方なり」について、高田好胤は『婦人画報』で

次のように紹介している。

いつもならお釈迦様が悟りを開かれたこの地で清冽に光り輝く明けの明星と鮮やかな日の出を拝ませてもらうのであるが、今年は天候不順でよく見えない。しかし、豊山さんはその奥の所を見、捉えている。インドの人達と宗教的に繋がっているようである。私共70人のお同行をいぎなう白い杖である。

昭和50年代には急速に視力が衰え、新聞も本も妻に読んでもらわなければならなかった。57年5月5日、漏電により自宅が全焼した。さらに追い打ちをかけるように5月21日八戸地方を襲った集中豪雨によって1300坪の宅地が水没する災害に会った。災害のショックと疲労から急激に視力が弱まり、6月に医師の診断を受けた時には視力ゼロと判定された。完全失明となったため介護者なしでは生活することが出来なくなった。

### 視力が衰えていく中で

時の経過とともに視力が衰えていく中で、目に関する句の内容も変化している。

昭和28年に、

草枯れや衰えてゆく目の力

昭和38年に、

冬夕映盲（メシ）ひの杖を離れぬ音

昭和53年に、

野は雪に尽きんとする眼の力  
という句を残している。

昭和53年頃までは、まだてらいがあり、見えなくなったのをなんとなく嫌がっているという格好の俳句だった。

視力が一層衰え始めていたのを感じ、自分の目で確かめうる間に俳句をまとめたいと思い、第2句集『蟹の鋏』以降52年から3年間の俳句を主題別に10章にして、昭和55年句集『唐辛子の真赤』を上梓した。53年から暖響欄に毎月出品していたところ、たまたま『寒雷』清山賞を受賞したので、受賞記念出版となった。

『唐辛子の真赤』の表題は「死の顔の笑みけり唐辛子の真赤」より採った。

この頃になると、俳句を作らなければならないという義務感も、作りたいという気持ちも薄らいできたが、不思議になんとなく俳句が生まれるようになってきたと言う。昭和63年には、

見えぬもの長き調べに山毛櫂(ブナ)  
芽吹き

蝗虫(バッタ)飛び盲(メシ)いの天は  
広さばかり

闇の田に虹の輪消えてしまへば霧  
等の句が生み出された。

## 社会貢献

前述したように、豊山は八戸俳句研究会、青森県俳句懇話会の設立にリーダーシップを発揮した。俳句は全く個人の趣味で、連帯してどうこうするものではない。しかし豊山は同好の士の向上が自分をも高めると考えていたようで、俳壇全

体の句力向上、親睦を図ることに尽力した。利己的なところは微塵も感じられない。

実業の面でも、自分が関わった団体では指導者としての役割を果たし、長あるいはそれ準じた地位についている。豊山の豊富な知識・経験もさることながら、豊山の持つ人間性への魅力が無ければ推されるものではない。信頼と尊敬を大いに集めていた結果であろう。八戸市森林組合理事長の他、八戸市椎茸生産組合理事、八戸市を緑にする会副会長、根城史跡保存会副会長その他多くの役職についている。

家業の林業や農業のほか、緑化事業、根城史跡保存等公共に対する長年の功勞に対し、それぞれの団体から表彰されている。俳句に関しては八戸文化賞、青森県文化賞を贈られ、集大成として昭和58年に青森県褒章が授与され、昭和60年4月29日には勲五等瑞宝章の榮に浴し、皇居で昭和天皇陛下に拝謁された。

## 福祉への道

昭和57年豊山千蔭点字句集『風化の観音』を出版した。目が不自由であるが、俳句によって得た表現のよさ喜びを同じ境遇の人たちに分かち合いたい、という願いからである。既刊の三句集から132句と、その後に作句した11句に、金子兜太が一句一句鑑賞文を付けてくれた。録音テープ、墨字本の三部作を出版、全国の点

字図書館や盲学校、福祉施設に寄贈した。表題はインドの仏跡巡拝行で詠んだ「風化の観音妻一本の杖となる」からである。豊山は句集の後書きに「介添えとして尽くしてくれた妻への感謝のしるしである」と書いた。

視力ゼロのうえ、頸椎後従靭帯骨化症という難病まで加わったが、この災難をバネにして新たな生の局面を打開していく。自分自身が障がい者になったことで、身体に障がいを有するため雇用されることが困難な方を通所させ、生産活動を通じて必要な訓練を行い、かつ仕事の間を与え、生活の充実と社会自立を促進することを目的とした社会福祉法人ぶさん会

の設立である。昭和60年私財3億円を投じ、柿の大き木が立ち並ぶ庭の一角に身体障害者通所授産施設「柿の木苑」を建設した。授産科目は織物、クルミ細工の木工品などで、現在の通所者は大人40名、子供10名、職員25名である。また、平成9年には精神障害者通所授産施設「双柿舎」を開設した。現在は「ワーク柿の木苑」と名称を変え20名が通っている。

インド旅行で占い師から90歳まで生きると言われた時、目が見えなくて90まで生きるのはしんどいなあと漏らしていたという。71歳の時であった。障がい者の自立支援を生きがいとして福祉事業を始めたものの、健常者にはうかがい知れ



金子兜太（右）と歓談する豊山千陰（中央）、平成3年

ない苦勞があったであろう。だからこそ、「俳句には魅力があり、寒雷への投稿は生きがいを助けてくれる何かがある」と俳句への救いを見出している。

平成 11 年には知的障害者授産施設「柿千卿」、26 年にグループホーム「ほぞの 1 号館」、30 年に「ほぞの 2 号館」を開所した。社会福祉法人ぶさん会は発展を続け、障がい者の生活支援に大きな役割を果たしている。

## 晩年の俳句

平成 2 年豊山は句集『唐辛子の真赤』以降昭和 55 年から 63 年までの 300 句をまとめて、実質的の第 4 句集『心空なり』を上梓した。表題「心空なり」はインド仏跡巡拝行での作品（本誌 8 ページ参照）からであり、句碑が史跡根城の広場、東善寺跡地に建てられている。

平成 14 年 5 月には八戸公園内文芸の小径に金子兜太の書による「無花果は熟れずに空のがらんどう」の句碑が建立された。豊山は句を発表するには推敲に推敲を重ねて発表している。例えば、昭和 42 年現代俳句協会賞の代表句「無花果の熟れずに空のがらんどう」は昭和 40 年 4 月の俳句帳に書きとめられた「無花果の未熟蒼天まぶしめり」を原句としている。そして昭和 51 年の句集『蟹の鋏』には「無花果の熟れざり空のがらんどう」と推敲されている。句碑には英文も一緒に刻まれている。

Unripe figs the Sky's so hollow

## 逝去

平成 14 年 6 月脳内出血により寝たきり入院となり、翌 15 年 12 月 22 日、享年 90 歳で帰幽した。

平成 17 年、豊山千蔭追悼集『心眼』がくに夫人の編集で発行された。表題は一年祭の結氷音忌の際に金子兜太が詠んだ「心眼もて風土に生きて千蔭の忌」からとられた。兜太は、その中で次のように評している。

「夕焼け空許そうしかし忘れまい」の句には、頑健で行動的な人だっただけに、視力を失ってゆく中での人間関係には腹の立つことが多かったし、今でもそうなのだろう。それを「許そう」と思い定めてきたのだが憤慨は拭いがたく残る。じーと内籠りつつ耐えている全盲の人の深い憤りを感じないわけにはいかない。長い付き合いの中で一度も哀歎の言葉を聞いたことがない。ショックで視界から光が完全に消えたと話したことがあったが、その時も実に淡々としていた。常に前を向いて歩いていた崇高ともいえる精神力にはただ脱帽するのみである。

くに夫人は「雪は寂かに見えざるは獄中のこと」を見て愕然とし、見た目には何事もなく振舞っていても、ずいぶん無理をして仕事をしているなど感じたという。そして「晩年はより精神が研ぎ澄まされ

『心眼』で生活していたように思う。豊山が亡くなって身体的にはいささか楽になったが、心の中に開いた大きな空洞は埋

まることがないだろう。夫であるだけでなく、人間としての師であった」と結んでいる。㊦



おおくぼ・つとむ

1969年北海道大学理学部化学第二学科卒業退寮  
大久保技術士事務所所長、元八戸圏域水道企業団副企業長

#### 執筆後感

バーチャル談話会の句会に参加するようになって、郷土の俳人のことを知りたいという軽い動機から、豊山千蔭さんの足跡を辿ることとなった。13,000字を超える駄文を8,000字にまとめ、小笠原さんの適格な校正によってようやく脱稿することが出来た。

豊山さんの俳句は一句一句心象が深く表現されており、同化する自分がいた。視力ゼロの中で障がい者の自立に向けた施設の建設・運営に只々頭が下がる思いである。先人の思いが少しでも後世に繋がっていく事を願っている。

大正3年生まれは父と同じである。出自や辿った人生は随分異なるものの、いつも相談を持ち掛けられていた誠実な父の姿が、執筆の最中ズーっと頭の中にあった。

# 「文学」を育み「文化」をつなぐ 岩手の戦後を変えた作家・鈴木彦次郎

黒沼 芳朗

盛岡市出身の作家鈴木彦次郎（1898—1975）を紹介したい。「巖鷲寮誌」での鈴木を紹介は唐突感が免れないが、御寮の初代理事長、葛西勝弥元北海道大教授とは親類。葛西を「叔父」と呼び、札幌と大学、寮の話は聞き及んでおり、縁は十分である。その鈴木は岩手の戦後を変えた人として、今、地元で再評価が始まっている。鈴木とはどんな人物で何をしたのか。検証しながら軌跡をたどる。

## 決断の疎開と図書館蘇生

鈴木は東京生まれ。5歳の時、父の郷里盛岡に移り、旧制盛岡中学、第一高校を経て東京帝国大卒。高校時代に川端康成らと出会い、新感覚派の一人として活躍、「文芸春秋」創設同人となる。戯曲「マウント・ヴァーノンの昼」、大衆文学では「七月の健康美」など、相撲小説の「大関大の里」「両国梶之介」などで売りだし、戦前は売れっ子ともなり華やかな全盛期を過ごした。戦争末期の44（昭和19）年、47歳の時、強制疎開で東京から盛岡へ転住

した。当初は鎌倉か小田原を疎開先にするつもりでいたが、盛岡の父から催促され、「意を決して家族で引っ越してきた。戦後10年ぐらいいは、私も妻も機会があったら東京へ戻りたいという望みを捨てきれず、腰がふらついていた」（タウン誌「街もりおか」）。

盛岡住まいで「暗い日々を送っていた」（同）鈴木が腰を上げたのは47（同22）年、岩手県知事から県立図書館長就任を要請されたことからだ。図書館は閲覧者も訪問者も少なく、閑古鳥が鳴きそうな森閑たるありさま。「図書館をにぎやかにすることが第一。そのために図書館の存在を広く認めてもらうことが先決問題だと考えるに至った」（『街—もりおか』）。

幅広い学識と知性の鈴木に知恵はすぐ出た。まず一室を茶房室に、児童閲覧室では毎週童話会を開き、貸出文庫を普及と拡充し、館長室をサロン風に解放した。図書館活動の普及で県内を巡ったが、中学時代から相撲の好手だった鈴木は、出先で青少年に相撲の稽古をつけ、そして

読書についての講話をした。館長職は6年間だったが、鈴木の仕事で戦後の岩手は図書館から変化が芽生えてきた。

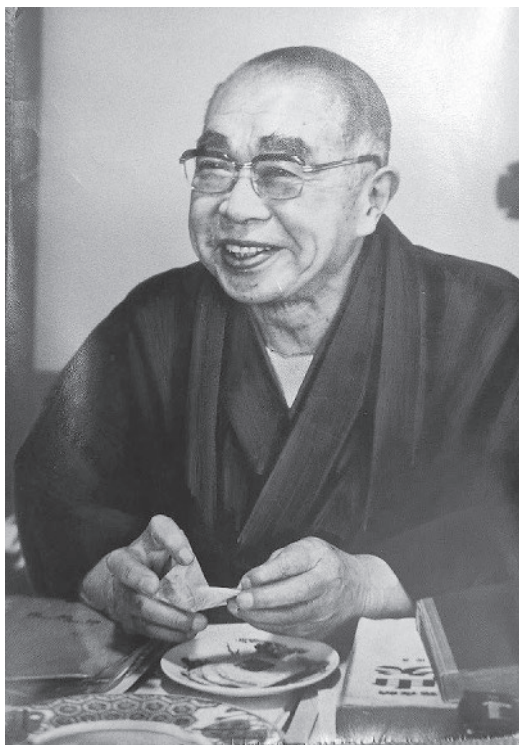
## 豊かな人脈で「北の文学」

その後鈴木の仕事は活発になる。一時、編集顧問を務めた岩手日報社に純文学総合誌発行を提案、55(同30)年、季刊「北の文学」を誕生させる。監修者は鈴木と作家仲間の川端康成、井伏鱒二、丹羽文雄、尾崎士郎の5人。この顔ぶれは日本の中で注目され話題となった。戦後文芸活動を模索していた若者たちは、著名な監修者と発表の場を得て情熱を燃やす。同誌は5集で休刊するが、ここから直木賞、同賞候補、講談社児童文学新人賞、小説現代新人賞、文学界新人賞、吉川英治文学賞などの作家が澎湃(ほうはい)として誕生した。鈴木が一人で岩手の文壇の夜明けをつくり、レベルを上げ、全国水準に導いた。

書き手を目指す若者たちにどんな指導をしたのか。「作品の良い部分を実に上手にほめてくれた」(作家長尾宇迦)。「自己の作品に対しては、大いに倨傲(きょごう=おごりたかぶること)におなりなさい。そして人間的には謙虚に」(作

家堀沢光儀)、「器用さより個性を打ち出しなさい」(作家小野寺芥)とも。

作家で元盛岡大教授の故須知徳平は鈴木から教わった言葉を学生らに繰り返した。「郷里で平凡な素材と思われているものが、広い視点からは大きく取り上げるべき素材であったり、逆に郷里では素晴らしい話だと思っていたものが、よく考えてみると、ごく狭い枠だけのものに過ぎない、ということがある。要は郷土の風土におぼれ過ぎず、それを一度突き放す



鈴木彦次郎 1973年(昭和48年)2月26日撮影

だけの心のゆとりがほしい」。須知にこの言葉は大きな啓示となった、と折に触れて話していた。「北の文学」は79(同54)年に復刊され、現在の編集委員は鈴木の子息、元文芸春秋編集者の文彦が当たる。伝統は受け継がれている。

「地方にいてもいい仕事が出来ることが立証したい」（「東北文学」47＝昭和22＝年5月号）と鈴木は疎開後の作家としての決意を宣言した。ところが情に厚く恩義を尊ぶあまりに、公職を頼まれると決して断らず、図書館長から県教育委員、県社会教育協会会長、谷村学院高校校長、県地労委委員、県文化財愛護協会会長、県高校PTA連合会会長、岩手育英奨学会理事、東京薬科大教授、岩手大学講師、県政顧問など枚挙にいとまがない。盛岡市長選に担ぎ出されたこともあった。しかし岩手県の政治、教育、労働、社会などの関係者は鈴木に甘えすぎたし、鈴木は依頼を過度に受け入れた。

## 多くの公職は岩手のため

なぜ鈴木は公職を受けたのか。なぜそれほどまでに岩手に尽くしたのか。鈴木の子息の岩手の風土への愛着は生涯のものだったが、これだけでは、なぜ、に対する理由がつかない。54(同29)年、鈴木は岩手日報文化賞を受けた。事由は「巡回文庫を創設し返地教育に貢献、文芸評論、創作活動を通じて文化活動に尽力した」。鈴木の受賞講演の中に、岩手へ尽くそうとする

姿勢が見える。「岩手人は総じて表現が乏しいと言われるが、これは恥ずかしがるという県民性のためにすぎず、その恥ずかしがりを克服するならば、啄木、宮澤賢治などの文学者や新渡戸稲造、田中館愛橘などの諸先輩に続く人々を送り出すことが出来ると考える。私はこうした県民性に少しずつ灯をともし役割をはたすことに今後の生きがいを見出していきたい」

岩手をにぎやかにしたい、とする鈴木はさまざまなことを考え、実行した。49(同24)年、岩手の政治家や文化人らが出演する文士劇を始め、自らも出演し、喝さいを博した。文芸春秋が東京で文士劇を始める1年前に盛岡で始まっていたのである。その益金は社会福祉に充てた。劇は一度中断したが、95(平成7)年、北の文学とかかわり深い直木賞作家の高橋克彦が発起人となって再開、現在は盛岡の年の瀬の恒例行事となっている。さらに68(昭和43)年、鈴木はタウン誌『街一もりおか』の代表発起人となって発行、毎月巻頭の随筆を書いた。随筆は盛岡の街を愛惜する鈴木の思いが込められている。

作家よりも社会教育者、しかも指導的存在になってきた鈴木に、作家仲間からの帰京への促しはなかったのか。文芸春秋や丹羽、小島政二郎、里見淳、今東光、久保田万太郎らは、しきりに帰京を勧めた。だが「盛岡にとどまって地域的な活動をやってみたい。それが温情を受けた人々への道だと思っているのです」と岩



手を中央として活躍する覚悟をのぞかせた。

## 郷土の誇りを次の世代へ

公職に追われる鈴木だが岩手日報を舞台に豊富な語彙を駆使して才筆を振るっている。多忙な日常生活の中から、暇を盗むようにして、晩年に至るまで原稿用紙に向かい書き続けた。戦後の代表作はいずれも郷土に題材を取っている。盛岡藩の武士を父に持つ近世音曲界の名人を同名小説とした「常磐津林中」、鈴木伯父で早世した自由民権運動家とその同志を書いた「自由の征矢」、絶筆となった「巷説城下町」では、明治の中期の盛岡を舞台に、実在した風流人を狂言回しに鈴木自身の集大成とした。

「常磐津林中」はテレビドラマとなり放送され、話題となった。筆者に鈴木は「田舎大関になるなど自身を戒めた作品です」と意図するところを語ったが、鈴木研究者の須藤宏明盛岡大教授は「鈴木は戦前からの小説と同じく、決してくじけず、捲土重来を期すというテーマで書いている。同時に鈴木自身の信条が主人公に即して語られている」と鈴木文学の特徴を語る。

鈴木は公職を通じて戦後の岩手の教育水準を向上させ、芸術文化の振興に寄与した。学識もさることながら冷徹な見通

しを持ち、また少しでも多くの意見に耳を傾け、じっくりと考えて、独善的な結論に走るのを避けた。一人の人間が命をかけて文化づくりをしたが、その志は次世代に受け継がれ、今、岩手は新たな時代を迎えている。

(敬称略)

【編注】この見出しは元岩手日報社整理部次長の佐藤威徳にお願いした。佐藤と鈴木彦次郎は親類。佐藤の祖父上田寅二郎は札幌農学校を経て旧制札幌一中英語教師。祖母綱は盛岡藩士の娘で、有島武郎母とは盛岡藩の大奥でともに奥方付き。上田家は一時、有島家の一角に住んでいた。佐藤の伯父は作家故石上玄一郎。↩



くろぬま・よしろう

1968年 法政大学社会学部卒。同年岩手日報社入社。大船渡支局長、東京支社編集部次長、学芸部長、編集局次長兼編集委員室長などを経た。

# 放射線の利用とリスク

中島 宏

## 寮との関係や先日の寮訪問の印象

先日約 40 年ぶりに貴寮を訪問させていただきました。私の弟が在学中にお世話になっていたご縁です。

当時とは、すっかり様変わりしていて、大変驚きました。自分の学生の頃は、学生寮といえば、薄汚れて、古ぼけたものが多く、男女が同じ寮にいることはなかったように思います。そもそも女性が非常に少なかった。しかし今や、寮は清潔感があり、女性が半数以上とは。まさに Gender equality, Diversity を感じました。また、学生の皆さんが、見事に挨拶している姿を見て、日本の将来は明るいと感じました。今後、世界に羽ばたいて行って欲しいものと感じた次第です。

さて、私は、大型加速器施設 J-PARC にかかる建設・運用・研究を長年行ってきたことから、ここでは、その加速器施設を含む放射線の利用とリスクについて述べさせていただきますと思います。

## J-PARC の概要

J-PARC は、世界トップクラスの大強度陽子加速器施設です。(https://j-parc.jp/c/index.html) ここでは、非常に高いエ

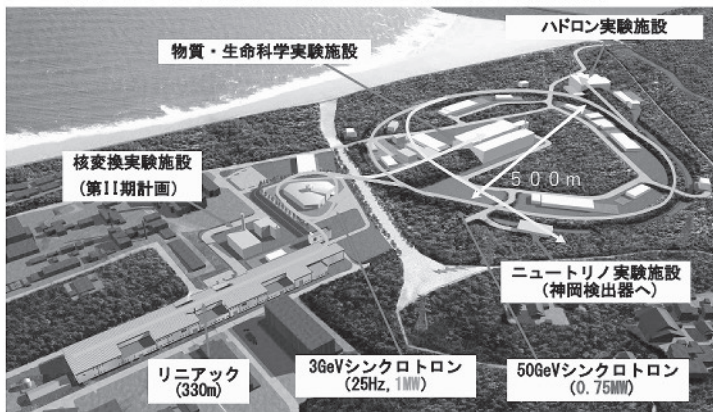
ネルギーの陽子を用いて、核反応を起こし、その反応から多彩な放射線を発生させます。この放射線を用いた新しい研究手段を提供することにより、物質科学、生命科学、原子核・素粒子科学など、基礎科学から産業応用まで、幅広い分野の研究を推進しています。本施設は、日本原子力研究開発機構（JAEA：Japan Atomic Energy Agency）と高エネルギー加速器研究機構（KEK）により共同で運営されており、茨城県東海村の JAEA の敷地内に設置されています。是非、見学・研究に訪れていただきたいところです。因みに、J-PARC は Japan Proton Accelerator Research Complex の略です。

J-PARC は、3 種類の加速器施設群と 3 種類の実験施設：物質・生命科学実験施設、ハドロン実験施設、ニュートリノ実験施設から構成されています。

加速器群の総延長は、1km 以上に達します。それによる陽子ビームの出力は、物質・生命科学実験施設において最大約 1 MW で、これに匹敵する加速器施設は、他に米国と欧州にそれぞれ一施設しかありません。また、陽子のエネルギーは、物質・生命科学実験施設で 3GeV、ハドロン実験施設で 50GeV です。3GeV で 1MW

# 大強度陽子加速器施設(J-PARC)

世界最高レベルのビーム強度を有する複合陽子加速器施設を建設。多彩な二次粒子を用いた新しい研究手段を提供することにより、物質科学、生命科学、原子核・素粒子物理学など、基礎科学から産業応用までの幅広い分野の研究を推進。



を達成するには、約 333mA のビーム強度が必要です。通常の加速器では、ガン治療用陽子線加速器でも 1 kW 以下程度ですので、本施設が如何に大強度であるかを想像してください。

ここで、GeV は馴染みのない単位かもしれませんが、説明しておきます。eV はエネルギーの単位の一つです。電子が電位差 1V を動く時のエネルギーで、約  $1.6 \times 10^{-19} \text{J}$  に相当します。熱に換算すると、1eV は非常に小さなエネルギーです。“G”は  $10^9$  を意味しますが、GeV でも約  $1.6 \times 10^{-13} \text{J}$  ですので、やはり熱に換算すると非常に小さなエネルギーです。福島県で問題になっている放射能は主に  $^{137}\text{Cs}$  ですが、この核種は約 0.66MeV の  $\gamma$  線を放出します (M:  $10^6$ )。J-PARC で用いている陽子のエネルギーは、これより 3 桁以上

高いので高エネルギーといわれています。因みに、世界最高エネルギーの加速器施設は、スイスとフランスに跨っている欧州合同原子核研究機関 (CERN) の LHC (Large Hadron Collider) で、そのエネルギーは 7TeV です ( $T:10^{12}$ )。私は、この施設で学んで、J-PARC の建設に携わりました。

## J-PARC における私たちに身近な放射線利用研究

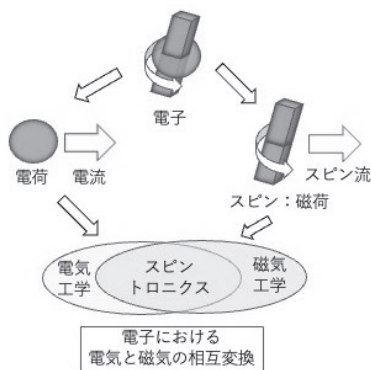
J-PARC で行っている放射線を利用した研究は、基礎科学から応用分野まで、非常に広い範囲で行われています。そこで、ここでは、物質・生命科学実験施設で行われている、私たちに身近な応用研究について、その一部を紹介します。身近な応用分野であっても、その分野は、以下に一部

示すように、エネルギー・環境からライフサイエンスなど幅広い分野に及びます。

- ・エネルギー分野：水素吸蔵材料、Li 電池開発
- ・IT 分野：超高密度ストレージの開発、スピントロニクス研究
- ・環境分野：メタンハイドレード利用実用化研究、環境低負荷高分子材料開発
- ・ナノテクノロジー分野：機能性微粒子開発
- ・ライフサイエンス分野：タンパク質運動・機能解明、創薬・薬物設計、バイオナノマシン開発

これらは何れも、どこかで耳にしたことのあるキーワードかと思いますが、聞きなれない言葉としては、「スピントロニクス」があるかもしれません。

スピントロニクスとは、電子などの粒子の電荷とスピンの両方を利用、制御する技術です。スピンは、量子力学の専門用語で、磁気に関係します。ですから、これは電気と磁気を粒子レベルで一度に制御する技術です。一般に電気と磁気の関係といいますと、理科で習ったコイルを思い浮かべる人もいるかもしれません。しかし、この技術を応用したメモリデバイスの世界では、コイルは不要です。近年、メモリデバイスは高速かつ低消費電力となり、スマートフォンの性能は飛躍的に向上しています。また、この粒子は、量子



レベルのコイルですので、これは起電力を持っていることと同じ意味になります。微弱な熱や音から電流発生させる、すなわちマイクロ電池や発電機にもなり得ます。逆に、マイクロレベルで物を動かす、マイクロモーターにもなり得るのです。さらには、化学反応をも制御し得る可能性あります。ですので、その応用範囲は無尽大で、その技術開発はこれからもますます向上するでしょう。スピントロニクスは日本の研究開発が大いに世界に評価されている分野の一つです。

高分子材料開発も応用範囲の広い研究です。最近、目立った一例としては、「エナセーブ」というエコタイヤへの製品化が挙げられます。福山雅治さんが宣伝に出ていたので、ご記憶の方も多いのではないかと思います。タイヤは、矛盾した製品です。車を、低燃費で効率良く走らせるには、摩擦の少ない、抵抗性のないものが要求されます。一方で、素早く安全に停止

させるためには、摩擦の強い、グリップ性能の良いものが求められます。さらには、長持ちさせるには、摩耗性能の良いものがが必要です。これらを同時に満たすものを開発するため、物質・生命科学実験施設、大型放射光施設 (Spring-8: 加速器施設) 及びスーパーコンピューター京が利用されました。

## 原子力利用による経済効果

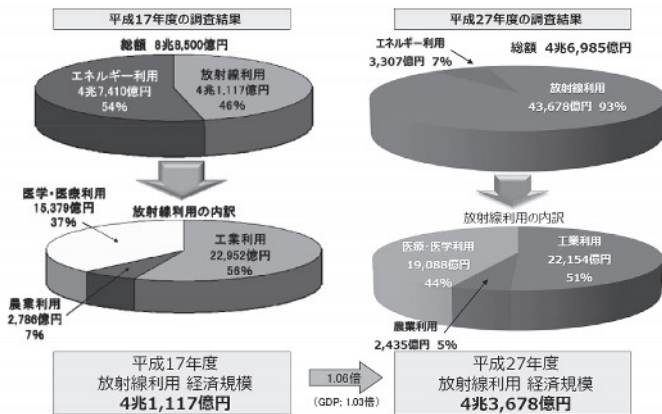
これまで、放射線の利用について述べてきましたが、ここでは、日本経済への効果について述べます。原子力に関してはエネルギー利用もありますので、ここではこれらを大きく原子力利用とし、エネルギー利用と放射線利用とに分けて数値を示します。

エネルギー利用については、2011年3月11日福島第1原子力発電所事故の前

後で大きく異なります。原子力委員会の調べによりますと、事故以前の2005年度には約4兆7千億円の経済効果がありましたが、事故後ほとんどの原子炉を停止してしまいましたので、2015年度では約3千億円に大きく減少しています。一方、放射線利用に関しては、2005年度は約4兆1千億円であり、2015年度には約4兆7千億円と増加しています。これらを合計すると、2005年度は約8兆9千億円、2015年度は約4兆7千億円です。事故以前、両者の割合は、ほぼ半々でした。しかし、世界的に見ると、これはかなり特殊で、放射線利用の方が、圧倒的に経済効果があります。例えば、アメリカの場合、この割合は凡そ1対10です。

さて、これら数値が経済に対してどの程度の意味を表すかということ、日本の名目GDPは、2005年度約532兆円、2015

### 原子力経済効果の変遷



平成29年度第29回原子力委員会資料

年度約538兆円ですので、それぞれ、1.6%と0.8%となります。他の産業と比較すると、電気事業全体が約8兆円ですので、エネルギー利用では約半数を占めています。製造業では、汎用・生産用・業務用機械が最も多く、2015年度約16兆円、その次は輸送用機械の約15兆円です。即ち、自動車産業の約半分の効果があります。また、農業は2015年度約4兆5千億円で、放射線利用だけでほぼ匹敵します。以上のことから、原子力利用が、日本経済に大きく影響を及ぼしていることが分かります。

## 放射線は危険か？

これまで、放射線利用について述べてきましたが、放射線の話をする際、避けて通れないのは、そのリスクの話とします。科学的データに基づく、ある一定量以上の放射線は人体に影響を及ぼす可能性があります。実際、1999年株式会社ジェー・シー・オー（茨城県東海村の核燃料加工会社）で起こった事故では、2名の作業員の方が5Sv以上の被曝により、死亡しました。また、広島・長崎の原子爆弾によっても多くの方が亡くなり、また障害に苦しんでおられます。大量の被曝は必ず避けなければならないものです。

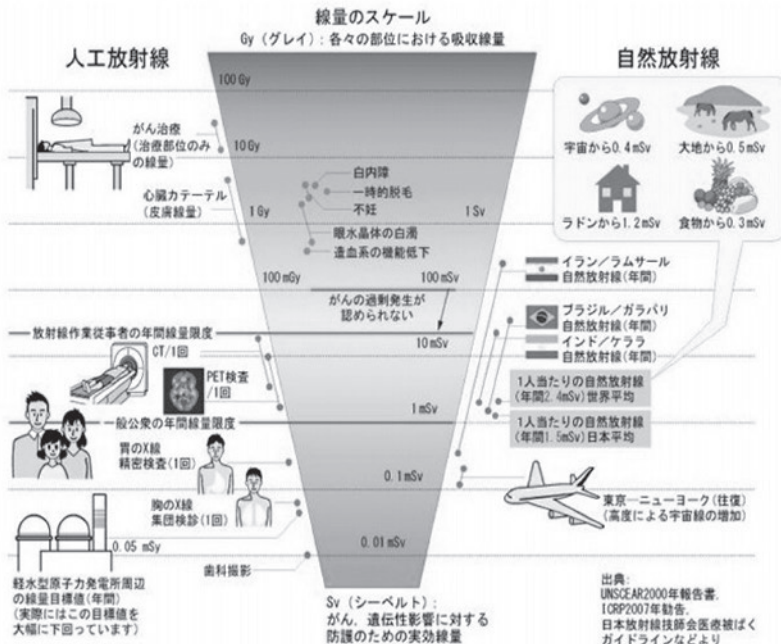
一方、国際放射線防護委員会(ICRP)などによると、「100mSv以下の被曝では、ガンの過剰発生が認められない。」としています。これまでのデータを持ってしても、

明確なことが言えないのは、この程度の線量では、他の健康阻害要因、例えば、喫煙、肥満などと比較した場合、他の要因による影響が大きくなるからです。また、被曝する期間によっても影響が異なります。80年間生きるとすると、誰しもが生涯で平均180mSv程度被曝します。先の100mSvより大きな数値ですが、放射線影響で生涯を閉じるわけではありません。ここで、Svは簡単に言うと、放射線が人体に及ぼす影響を表す量です。

この数値がどの程度の影響を持つものかを考えるには、自然にも放射線は存在しますので、自然との比較が適当かもしれません。原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)によると、一人当たりの自然放射線の世界平均は年間2.4mSvで、日本平均は1.5mSvです。世界平均の内訳は、宇宙から0.4mSv、大地から0.5mSv、食物から0.3mSv、建物で生じるラドンから1.2mSvです。

日本の平均が少ないのは、主に住環境によるもので、木造建築に住んでいる場合、ラドンによる被曝が減少します。放射能はコンクリート、大理石などにも含まれていますので、これらによる被曝の差も現れます。そもそも、放射能を含んでいない物質はほぼありません。ですので、決して被曝をゼロにすることはできません。

先の平均値は土地によって大きな差があります。ブラジルのガラバリやインドのケララでは年間10mSvを超えますし、



ラムサル条約で有名なラムサルに至っては、年間平均 100mSv に達します。これらは主に地中のトリウムという物質によるものです。しかし、そこには住民がいて、普通に生活しています。

宇宙によるものは、主に太陽からくるものです。太陽は、重水素とトリチウムの核融合反応により、輝きを保っていますが、その核反応の際に放出される放射線の一部が地球に到達します。他にも、銀河系の星々などから来るものもあり、実は、宇宙は放射線に満ち溢れています。国際宇宙ステーション ISS に滞在する宇宙飛行士は、一回の滞在で数百 mSv の被ばくをすることもあります。地表面の放射線

が少ないのは、地磁気で宇宙線が跳ね返されることと、空気による遮蔽されることによるためです。

食物によるものは、主にカリウムによるものです。カリウムは体内に蓄積します。その結果、誰もが放射線を放出しており、体重 60kg の人で平均毎秒 8 千個程度放出しています。また、放射能は、海産物に多く含まれていることが知られていますので、これらを摂取する機会の多い日本人は、より多くの放射線を出す傾向にあります。

以上のことから、100mSv が一つの目安になると思います。長期にわたるものでも短期間によるものでも、それ以下の

放射線の被曝については、地球から逃れられない以上、心配しても仕方がないのです。逆に、それ以上の被曝が想定される場合は、慎重な対応が必須です。

## 過度な対応には弊害がある

日本の法律では、原子力施設や放射線施設を建設する際、一般の方々に対して年間線量限度 1mSv の制限を課しています。これは2桁も安全裕度（危険に対する余裕）を持たせた数値です。これは、日常生活における法律を作る観点からは、ある意味仕方がないことかもしれません。

福島事故における除染も 1mSv/年を基準にしていますが、これは科学的根拠というよりは、安心感を与えるために政治的に決めた値という方が妥当かもしれません。但し、緊急時の対応としては、世界的基準からするとかなり少ない値で、緊急時により優先して行うべき人命救助などに影響を及ぼす可能性があります。災害関連死として扱われている方々は、ほとんどがこれに該当し、避難の際に亡くなられたと聞いています。

食品の安全基準に至っては、それよりさらに厳しい制限を課しています。これは明らかに過度であり、逆に人々に不安感を植え付けるものであるかのように思えます。福島復興の妨げにすらなっていると私は感じます。今やこの基準に該当する農産物は、ほとんどないかと思いますが、即刻改正すべきものと思います。

これら過度の対応の弊害については、大きく2つあると思います。一つは経済的に影響を与えることと、もう一つは不安を煽ることです。安全対策には、費用が必要です。安全対策にかかる「費用対効果」は、適切に評価される必要があります。過度な対策による費用は、何らかの形で、私たちに降りかかってきます。原子力発電所の安全対策費用は、そのまま電力料金に反映されます。これまで、原子力発電所の建設費用は1基数千億円でした。しかし今や、2倍とも3倍とも言われています。世界的に比較して、かなりの高額になっている日本の電気料金がさらに上がることは、産業界に大きな影響を与えかねません。適切な基準が求められる第一の理由はここにあります。第二の理由は、不安を感じて、過度に恐れることです。未だに様々な機会に一部のマスコミにより、荒れ果てた福島の光景が映し出されます。しかし、既に、前向きに復興に向かっている人たちが大勢いるのです。先にも述べましたように除染基準の 1mSv/年は、皆さんが年間に被曝している量の誤差範囲内です。それを未だにクローズアップすることは、皆さんの不安を掻き立てるとしか思えません。最初に述べましたように、放射線を適切に恐れることが重要です。

## リスクと適切に向き合う

これまで放射線の利用とリスクについ



て述べてきました。これは、放射線に限ったことではありません。何らかの活動、事象には、必ず、利益とリスクが伴います。

リスクは、科学的には、発生頻度と発生した場合の影響度の積で表されます。例えば、自動車事故のように発生頻度は高いが、その影響が社会的に少ないものと、原子力発電所の事故のように発生頻度は少ないが、その影響が大きいものは、この式によってリスクを比較できます。ここ数年、自動車事故で亡くなる方は年間数千人数ですが、10年程前までは数万人でした。さらに、負傷者やその家族を加えると影響の範囲は桁が変わってきます。これだけで、リスクは自動車事故の方が高いことが分かります。しかし、社会生活においては、その活動による利益との比較をする必要があります。今や私たちの生活に自動車は欠かすことのできないものになっています。ですから、これらを総合的に判断することが、科学的には合理的です。

世の中には、リスクのないものはありません。例えば、金融については、私たち全てに関わることであるので、良い例かもしれません。今、銀行預金金利はほぼゼロです。しかし、物価は上がり続けていますので、相対的に、お金の価値は下がっています。ですから、銀行にお金を預けること自体が金融の観点からするとリスクです。では、政府が促進している投資はどうか。これは言わずと知れたるリスクの塊です。しかし、適切に学習し、金融の理論や仕組

みを理解することで、そのリスクを低減することができるだけでなく、大きな利益を上げることが可能です。即ち、適切に学習し、総合的に判断して行動することが、リスクとうまく付き合っていく方法かもしれません。因みに、外国では、“No pain, no gain.” が常識です。

## 最後に

本稿では、放射線利用による社会への貢献とそのリスクへの対応について述べてきました。これは、原子力に限らず、科学技術一般に言えることです。大学等の研究室で日々行われている研究開発には、この両面があることを、先ず科学者が認識していなければなりません。しかも、時としてそのリスクは、その科学者が予見しえぬこともあり、世に出て初めて明らかにされることも多分に考えられます。だからと言って、研究開発を止めることは、これまで先人たちが営々と行ってきた研究開発の成果を享受して生活している私たちが行うことではない、と私は思います。とするならば、研究者としては、その研究開発について、倫理的、法的、社会的責任について認識し、社会に広く容認される活動を行わなくてはなりません。社会に容認されるには、ステークホルダーとの対話の場を保ち続ける必要があります。これらについて、欧米では、RRI (Responsible Research and Innovation) 概念に基づいて、活動が行なわれていま

す。RRI 概念とは、簡単に言うと、「科学技術の発展が持続可能で社会に望ましいものあることを目指して、個と社会が適切に共同して責任を果たすこと。」です。

これは企業活動等広く一般の活動にも当てはまるように思います。企業等組織における ESG (環境・社会・ガバナンス) 経営も、社会というキーワードにおいて、こ

の概念に類するところがあります。そして、その根底には、倫理的、法的、社会的責任があります。

学生の方々も、企業等組織におられる方々も、是非この機会にそれぞれが行っている活動における責任について、今一度自分事として、考えていただければと思います。㊦



なかしま・ひろし

出身：岩手県盛岡市

最終学歴：東北大学大学院工学研究院原子核工学専攻

主な職歴：日本原子力研究開発機構研究員他、欧州原子核研究所  
客員研究員、高エネルギー加速器研究機構客員教授、  
理化学研究所客員研究員

現職：北海道大学大学院工学研究院・原子力安全先端研究・教育  
センター副センター長・特任教授

#### 趣味等

旅行及びB級グルメ：北海道に来て2年半、  
道内あちらこちら食べ歩いています。

# 焼尻島の歯科診療

本多 丘人

## はじめに

焼尻島（やぎしりとう）をご存じでしょうか。

北海道には通年人が住んでいる離島が（いわゆる北方領土を別にして）5つあります。礼文島、利尻島、天売島、焼尻島、奥尻島です。これらのうち礼文島は礼文町、利尻島は利尻町と利尻富士町、奥尻島は奥尻町と、それぞれの島自体、町としての体裁が整っていますが、天売島、焼尻島はどちらも規模が小さいため、行政的には羽幌町の一部となっています。

私は縁あって長年にわたり主に焼尻島で、時には天売島でも歯科診療に携わってきました。今回は離島の事情やこれまでに焼尻で経験したことについて述べさせていただきます。皆さんの多くはおそらく都市部の出身だと思われるので、そこはだいぶ違う離島の暮らし、医療事情などについても少しは知っていただきたいと思うからです。ただ、私は実際に現地に住んでいたわけではないので本稿はあくまでも訪問者の視点です。

## 焼尻島の概要

焼尻島は道北の日本海にある離島で、羽幌港から西に 25km ほどのところにあります。さらに西側 4km のところにはウミガラス（オロロン鳥）、ウトウなどの海鳥で有名な天売島が浮かんでいます。天売島と焼尻島は「暑寒別天売焼尻国定公園」に指定されるなど、風光明媚な離島です。そのため、二つの島は同時に語られることもある一方で、比較される宿命にあるとも言えます。

焼尻は周囲約 12km の小さな島。オンコ（イチイ）やミズナラの「焼尻の自然林」が国の天然記念物に指定されていて、緑豊かな島として知られています。天売も焼尻も、元々は他の日本海側の市町村と同様にニシン漁で栄えた過去があります。戦後のベビーブームや樺太からの引き揚げなど人口増加要因も重なり、1954 年の焼尻島の定住人口は 2,700 人余りと記録されています。3 月～4 月のニシンの時期には本州からの出稼ぎ者を合わせると 5,000 人以上が島で暮らしていました。島の老人たちから聞いた話では島には映画館、飲み屋街、十数軒の商店、銭湯などがあり、かなり賑やかだったようです。けれども 1955 年ごろからニシンは来なくな



フェリーから見た天売島（左）と焼尻島（右）

って島を離れる者、出稼ぎに行く者が増えました。島に残った漁師たちは島の周囲で様々な魚種を対象とした漁業を続けてきました。昭和 40 年代からは近海で 200kg 以上のマグロが獲れた時期もありましたが、大きなマグロが獲れなくなつてからはコウナゴ、ヤリイカ、ホッケ、タコ、ウニ、ナマコなどが漁の中心となりました。ホタテの養殖も少し行われています。

### 学生時代の焼尻訪問

1972 年のことだったと思います。私は学生時代、自然保護研究会というサークルに所属していました。このサークルは今でも自然研究会という名前に変わって存続しているとかいないとか。毎年 6 月の大学祭の休み（？）には仲間とどこかに

出かけるのが通例でした。この年には天売・焼尻に行こうという話になり、ついでに増毛から暑寒別岳に登り雨竜町に下りるという無謀に近い計画が実行されました。島でゆっくりする時間的余裕はなく、オンコ林の中の遊歩道を巡ってから、当時焼尻にはキャンプ場は整備されていなかったので地元の方の許可を得て焼尻港の近くの空き地にテントを張って一泊しました。翌朝、漁船溜まりで刺し網から魚を外しているところにお邪魔して魚をもらい、煮つけにして食べた記憶があります。売ってくださいと頼んだのですがタダでいただけました。この時代、学生さん、とくに北大の学生は道内どこに行っても優遇されたのではないのでしょうか。はるか昔となった学生時代の思い出です。まさかその焼尻に卒業後何度も何度も行く

ことになるとは……。

## 離島歯科診療

島の人口が多かった時代には、羽幌町の開業歯科医がしばしば島を訪れて診療していたという話を聞いていますが、人口の減少とともに天売焼尻両島は完全に無歯科医地区になったようです。1981年7月、北海道知事による「移動知事室」が天売・焼尻両島で行われ、焼尻会場では島民150名が出席して様々な課題について話し合うとともに島民からいくつかの要望が行われました（広報はばろ1981年8月号）。その中で「天売・焼尻での歯科診療の実現について」という一項があり、当時の堂垣内知事は「来年度以降の予算に盛り込んでいきたい」と答えているので、それを機に道が離島歯科診療を検討したようです。当時歯科医師は極端に不足していたため、そう簡単に離島に行く歯科医師は見つかりません。そこで道は北大に依頼することにしたわけです。私は1976年に歯学部を卒業して、そのまま北大の予防歯科学講座というところに残っていました。当時の予防歯科の教授は地域医療に理解があり、道内数か所の僻地で研究を兼ねてむし歯の予防活動に取り組んでいたこともあって、われわれの講座が天売・焼尻の診療を引き受けることになりました。

はじめは年に2回、それぞれ1週間島に滞在して診療を行うというものでした。

診療班の派遣費と設備は主に道が、消耗品などは町が負担するという形です。歯科医師2名は北大から、歯科衛生士2名は北海道歯科衛生士会が、歯科技工士1名は北海道歯科技工士会が人選をして診療班が編成されることになり、現在まで続いています。1982年に天売焼尻両島で歯科診療が開始されたころ、焼尻の人口は700名ほどだったと記憶しています。仕事量が多かったので横路知事の時代に診療班の派遣回数が年2回から年3回に増やされました。また、一時期は歯科技工士を2名に増やしてやっていたこともあります。しかし島の人口はずっと減り続けていて、近年の焼尻島の人口は2002年：392人、2012年：256人、2022年：174人（いずれも9月末日現在）と20年間で半減し、減少は止まりそうもありません。人口減少に伴い、数年前から歯科医師は1名で十分間に合うようになりました。

焼尻では研修センターという建物の一部に歯科診療室があつて診療台（デンタルチェア）が2台設置してあり、ほぼ普通の歯科医院と同じ治療が可能です。そばにある技工室では歯科技工士が義歯（入れ歯）を作製したり修理したりします。義歯を作製する場合、ふつうは4週間前後の期間を要するのですが、島では限られた1週間の突貫工事で作ります。義歯を作ることになった島民は毎日診療に通うこととなります。

1982年に島での診療が始まってから、

私は主に焼尻での診療班をやってきました。北大を退職してから5年も経っているのに、まだ行っています。代役が見つからないことと、自分が焼尻に愛着があるためです。30歳代に海外留学していた2年間を除いて毎年2回か3回は焼尻に行っているのです、総計では100回ぐらいは焼尻に行っている計算になります。

## 医療事情（医科）

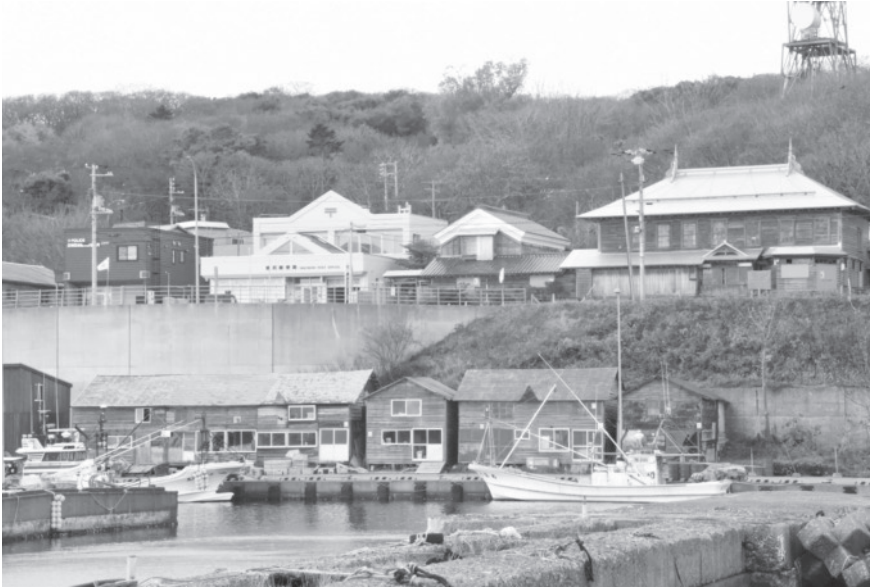
病気やケガなどに対応するためには医師の存在が重要です。ただ、北海道は広大であり簡単に医療を受けることが困難な地区が存在しています。医師（歯科医師も）は都市部に居住したい人が大部分なので、必然的に無医地区、無歯科医地区ができてしまいます。人口が少なければ業としての医療が成り立たないこともあって、道は各地に診療所を設置してきました。2022年現在、8か所の道立診療所があり、羽幌町には天売診療所と焼尻診療所の2つがあります。道立診療所には医師1名、看護師1名、事務1名が配置されて一次医療（困難でない治療や健康管理）を担っています。道の悩みはこれらの診療所に勤務する医師不足。しょっちゅう募集をしています。幸いなことに焼尻診療所ではこれまで医師不在の期間は少なく、常勤医不在の時期にも道立羽幌病院からの医師派遣によって地域医療はなんとか守られています。

島に入院設備はないので、重症になっ

た場合には都市部の病院に紹介されることとなります。また、急病や大きなケガなどの場合にも島では対応が困難で、たいていはフェリーが利用されますが、年に数回はドクターヘリが飛んでくることもあるようです。ドクターヘリの離着陸が難しくなるほどの天候の場合には海上保安庁や自衛隊に依頼するしかありません。

2000年に介護保険制度が始まって焼尻にも高齢者支援センターが設置されました。週に2回デイサービスが行われ、数名の高齢者が通っています（送迎あり）。近年はなぜか女性ばかりです。体操、昼食、入浴、ゲームなどを和気あいあいとやっています。ゲームは若い人たちがやっているゲームとは違います。焼尻でよく行われているのは宝引き（ほうびき）。何本ものヒモのうち1本だけに現金（穴あき硬貨）が結びつけられていて、それを引き当てるといふ、要はギャンブルの一種です。元は正月の遊びだったようですが、現金を賭けると叱られますから疑似的な賭け事としての遊びになっています。

少々の要介護状態であれば島内で助け合いながら暮らすことができるのですが、要介護度が高くなればどうにもなりません。島を出て札幌、留萌、旭川などに住んでいる子どもの元に引っ越すか、あるいは島外の施設への入所を医師からも周囲の人からも勧められます。ほとんどの高齢者は、不便でも独り暮らしでも、いつま



上段：羽幌警察署焼尻駐在所（左）、焼尻郵便局（中）、焼尻郷土館（昔の商店兼網元、右）

でも島で暮らしたいと思っていますが、それが叶わないのが現実です。夏は島にいて冬は子どもの家で暮らすという高齢者も多いようです。島内で亡くなる人はほとんどいません。お寺も墓地もありますが住職は不在、火葬場は2011年以降の使用実績がなく老朽化したため2022年に廃止されました。

道内の市町村で高齢者（65歳以上）の割合が最も高いのは夕張市で53%ぐらいですが、焼尻では10年以上前から50%を超えています。少子高齢化の先取りとも言えます。それでも焼尻で元気そうに見える高齢者が多いのは、歩くのが難しいほどの人は島から出ていき、そして戻ってこないからなのでしょう。

## 役場支所

焼尻は（天売も）羽幌町の一部なので島には羽幌町役場の焼尻支所があります。正職員は2名。支所長と若手の町職員（正事）です。2人で町の行政全般を行っています。支所長も主事も2年ごとに交代しますが、業務の継続性や島民とのつながりを保つために毎年互い違いに島に赴任する（今年支所長が替われば来年は主事が替わる）ということになっています。羽幌町職員の大部分は一生に1回は島での仕事を経験することになります。町職員にとっては不便な生活を強いられる島流しのようでもありますけれど、さまざまな仕事を経験するチャンスとも言えます。ま

た、正職員だけでは支所の仕事をこなせないで、嘱託職員（臨時職員）として数名の島民が雇用されています。それでも支所の職員だけでは確定申告や選挙などの場合には対応できないので羽幌の街から応援の職員がやってきます。ちなみに選挙の投票は決められた日の前々日と決まっています。もちろんフェリーが欠航する可能性を見込んでのことです。国政選挙の前々日の投票の様子は必ずニュースとして報道されます。

## 警察

警察官は一人だけ。羽幌警察署焼尻駐在所の2階に住んでいます。警察は地元との癒着ができないよう、数年で転勤します。焼尻は2年交代。必ず家族とともに赴任し、警察関係の仕事すべてを行うほか、島の重要人物でもあることから、島の行事、学校行事などにも参加することになります。島民との関係が気まずいものになると仕事にならないので、よほどのことがない限り取り締まりなどはしません。数年前には島の人たちとウマが合わない警察官が来て、島民から苦情続出、赴任後1か月ほどで交代したこともありましたが、ミニパトで島内を巡視している姿をよく目にしますし、フェリーや高速船の出入りの時には必ず港に現れます。不審者の入島を監視しているのかもしれませんが。しかし島の治安はきわめて良好で、家に鍵をかけることはほとんどなく、

そのへんに駐車している車はキーをつければなしです。

## 消防

焼尻には北留萌消防組合（5町1村）の焼尻分遣所があり署員1名が配置されています。警察官と同様に2年交代です。立派な消防車、防火服、救出に使う道具など装備はありますが一人だけではどうにもなりません。そのため島民による消防団が組織されていて、年に2回ほど訓練が行われています。火事はめったに起こらないとはいえ、人が住まなくなった廃屋もたくさんあるので一旦火が出れば延焼を防ぐことができるかどうか。やはり防火・防災が大事です。消防団員は女性を含めて40名ほどであり、動ける年齢の島民全員ということかと思われま

## 北電焼尻発電所

島の電気は焼尻発電所で作られています。この火力発電所は北電の子会社のものではありません。人口の減少とLEDの普及により発電量は減少を続けているとはいえ、24時間絶えることなく発電や発電機の保守作業を行わなければなりません。

2018年9月6日未明、最大震度7の胆振（いぶり）東部地震が発生し、道内最大規模の北電厚真火力発電所の不具合が引き金となって全道的な停電（大規模広域



停電：ブラックアウト)が発生しました。札幌でも電力の復旧に数日かかり、その間信号機が作動しなくなって交通障害が発生しました。また、多くの店が休業するなど不便な生活を強いられました。ガソリンスタンドには車の行列ができ、開店していたすべての店でモバイルバッテリーやパン、カップ麺などが売り切れました。

全く影響がなかったのは離島です。利尻、礼文、焼尻、奥尻にはそれぞれ発電所があり天売には焼尻から海底ケーブルで送電されているので離島はブラックアウトの例外となりました。

## 学校

70代、80代の老人に尋ねると、昔は1学年に2クラス、100人近くの子供がいたという話です。今年度(2022年度)、焼尻小学校は児童数3名だけ、中学校は数年間休校していましたが入学生が1名いて学校が再開されました。中学校再開とともにその生徒だけのために教員が4名配置されています。

このように子どもの数が少ないと必然的に授業は先生と1対1になるので「落ちこぼれ」はあり得ません。体育の授業は小中4名の児童生徒が一緒。先生方も参加することが多いようです。いくら小さ



焼尻発電所(右)と焼尻小中学校 遠景は天売島

な学校でも運動会、文化祭、社会見学、修学旅行などの学校行事はちゃんとあります。運動会は「島民運動会」。子どもだけでは運動会が成立しないからです。文化祭も同様です。修学旅行は独自に行くことはなくなり、羽幌の学校と一緒にいくようになっています。

学校給食も、もちろんあります。子どもの誕生日に合わせた特別メニューやbuffet形式(いわゆるバイキング方式)、あるいは子どもの希望を取り入れたリクエスト給食と呼ばれるものが提供されることもあります。児童・生徒数よりも数が多い教職員、とくに若手の先生方にとって学校給食は健康を支える大きな力になっているはずです。

焼尻は天売と同様に、道が定めているへき地(僻地、1級~5級)の中では最も不便な場所に該当する5級へき地に指定さ

れているため、教員の基本給に25%のへき地手当が加算されます。すると数年後に島を出て別の学校に転勤すると仕事量がぐんと増えるのに給与は大幅に減るといふ悲しい事態が生じます。



## 先生、お金貸して

天売に向かうフェリーから見た焼尻小中学校

昔話です。ある時、北大で歯科診療中に電話がありました。焼尻中学から小樽の高校に進んだ生徒からでした。いきなり「〇〇だけど、先生、お金貸して」。急にお金がなくなって困っているとのこと。しょうがないので仕事を終えてから小樽まで車を走らせました。どうしてお金がなくなったのか尋ねると、パチンコをして使い果たしてしまったとのこと。親には言わないでほしいとも頼まれました。1万円渡しました。数年経って彼が島に戻った時、私が忘れていたのにちゃんと返してくれました。

## 船便

現在、5月の連休から9月いっぱいまではフェリーと高速船の2船体制で1日に数便が羽幌港と島とを結んでいます。運航ルートはすべて羽幌→焼尻→天売→焼尻→羽幌です。お盆の帰省ラッシュの

数日間だけはフェリーと高速船のフル稼働で1日6便も運航され、かなり混むという話です。10月からはフェリーだけ、しかも1日1便になります。つまり、島から羽幌（北海道本島）に行くには必ず泊りがけとなるわけです。また、フェリーといっても本州と北海道とを結んでいるような大型のフェリーとは異なり総トン数500トンほどの車両数台しか積載できない船なので、波に弱く、よく揺れます。

## 船酔い

乗船する人にとって、船酔いの問題があります。極端に弱い人は羽幌を出航して5分後には酔ってしまいます。焼尻まではたった1時間なのにその後の55分がひどく長く感じられるようです。慣れている乗客は船首に頭を向けて横になっていれば酔いにくいとわかっているのですが、船が動き出す前にその態勢になります(二

等船室はカーペット敷き)。眠ってしまえば時間はすぐ過ぎるのでそれがベスト。しかし初心者には船に乗った緊張や島への期待があるために、そう簡単に横になることはできません。船内を見て回るほど船は大きくないので左右のデッキを行ったり来たりするぐらいです。夏であれば遠ざかる北海道本島、そして近づいてくる島、時にははるか北に見える利尻山を眺めたりして気を紛らわすことができます。しかし冬の荒れた日には景色が見えないだけでなく波が船底を打つ衝撃音が不安を増長するので気の弱い人は恐怖におびえながらじっと耐えるしかありません。往路で少しでも酔うと帰りのことが心配になります。そしていっそうナーバスになり緊張が船酔いを誘発します。島の人には「帰りは追い風だから大丈夫」と慰めてくれるのですが、必ず追い風になるとは限りません。

## 欠航

夏は台風でも来ないかぎり欠航はほとんどありません。しかし秋冬の日本海は荒れる日が多いのでフェリーはしばしば欠航します。10月～3月の欠航率は、その年にもよりますが30%近くになります。そして欠航は2～3日連続ということが多いため、これまでに歯科診療班が予定より1日あるいは2日遅れで島に渡ったり、島から戻るのが数日遅くなったりすることが何度もありました。島に渡る前

に何日か欠航すると焼尻になかなか到達できないことに焦りを感じます。羽幌の沖合わずか25kmほどのところにある島なのに、地球の反対側に行くよりも時間がかかると「遙かな島」になります。

島を離れる予定の日欠航がわかると、診療班一同、がっかりです。諸般の事情で歯科診療を延長することはできません。夏なら島の散策でもすればいいのですが、診療に充てられている晩秋(11月)と真冬(2月)には行くところもほぼありません。たいていは部屋でゴロゴロするばかりです。しかし時には島の人が昼ごはんを招いてくれたり、めん羊牧場(羊舎)を見学に行ったりすることもあります。

島の人たちは漁師でなくても風や波に敏感です。大部分の島民は、1週間ぐらい先までの気象予報を気にして行動しています。自分が船に乗らなくても、そうする習慣が身についているようです。受診した人たちに「土曜日(帰る日)はどうですかね」と訊くと、「出るんでないかい」だの「あぶない」だの、教えてくれます。「絶対ムリ」と言われることもあります。島民は、自分が用事や旅行で島から出る時には予定を早めて出発したり船に弱い人の場合には波の静かな日を選んだり、フェリーの運航を考えて行動しています。

## 欠航が続くと島では

人やモノの動きが止まります。島外から来るはずだった人が来られないだけで

なく、島で足止めされる人が出ることも問題です。もちろんこの家でも食品の備蓄はある程度ありますから、飢えで苦しむことはありません。しかし商店では果物や野菜、パン、牛乳などがなくなり島外から持ち込まれる品物はすべてフェリーが動くまでは届きません。さらに、天売も焼尻もゴミは収集車が回収してフェリーで羽幌に運びますし、島では浄化槽が設置されているのは一部だけで基本的にバキュームカーが各家庭などのし尿を集めて羽幌に運んでいます。すると欠航によってゴミやし尿が車ごと島から出られなくなってしまいます。新聞も郵便物も荷物も届きません。欠航が長いと届かなかった分は一度にまとめて配達されることとなります。このように、島での暮らしは何事もフェリーが頼りです。ただ、欠航は珍しいことではないので騒ぐ人は誰もいません。

## 派遣中止

島の診療は歯科衛生士の募集など人の手配から始まり、準備に相当の時間がかかります。けれども直前になって中止になったことが40年の歴史で2回だけありました。どちらも最近のことです。

2021年の2月は極めてレアなケースでした。天気予報では時化(しけ)ることが予想されていましたが、予定どおり土曜日に羽幌で泊まりました。前日もこの日も欠航でした。翌日の日曜日は島に渡

る予定だったのですが欠航。その後も月、火と連続して欠航になり水曜日、やっと運航するとの情報で荷物をまとめてフェリーターミナルに向かいました。ところが乗船券を購入して一部の人が乗船した段階で、急に風が強くなったとかで急遽欠航になってしまいました。船長がそう判断したのでどうしようもありません。木曜日も欠航となり、もはや島に渡っても仕事にならないと判断、道庁や町と相談して島に行くことは諦めスゴスゴと札幌に帰りました。連続欠航の間は翌朝までヒマになり、車で行ける範囲であちこちの温泉に行きました。温泉ざんまいの怠惰な日々でした。ちなみに札幌に戻った翌日(金曜)も欠航で、連続8日間の欠航は記録的。これほどの欠航続きは記憶にないと後日島の方から伺いました。

2022年2月には新型コロナ蔓延のため行きませんでした。そのころまで焼尻ではPCR検査陽性の人は一人も出ていなかったのに、札幌からの一団は警戒されていたのでしょうか。診療班を派遣するのは道なので、道が万が一の感染を警戒したのかもしれません。実施2週間ほど前に道庁から中止の指令が来て、残念な思いをしました。

## 焼尻のカフェ

商店は2軒だけ、食堂は夏に浜(フェリーの着く港)でやっている2軒だけ、居酒屋もコンビニもクリーニング店も床屋・

美容院も銀行もなくほぼ何もない島ではありますが、なんと、カフェがあります。仕事をしていた時には必需品だったパソコンやテレビとは縁を切って15年ほど前に島に移住した女性がやっています。彼女は長く横浜で建築デザイナーやカラーコーディネーターの仕事をしたのち、何を思ったのか田舎暮らしをすることに決めて住む場所を探していたところ、焼尻の景色が気に入って住宅兼カフェを建てて住んでいます。移り住んで15年も経つというのに、島から出たのは4回だけという変わり者です。メニューはコーヒー、チャイ、スパゲティ（ミートソース）、カレーライス、以上です。コーヒーは自分で豆をブレンドして自分好みの味を作り出していますし、大量の茶葉を使い牛乳たっぷりスパイスたっぷりのチャイは訪れる人の評判がいいようです。ミートソースもカレーライスもいろいろなスパイスをふんだんに使って作るので形容する言葉が見つからない独特の味。好みは別れるところですが、決してまずくはありません。食事は要予約。診療班は滞在している間に必ず行くようにしています。

## 宿泊施設

今、焼尻で通年やっている宿は1軒の民宿だけです。その民宿も高齢者が一人でやっているので、10年後にはどうなるか。2021年まで営業していた通年営業の旅館は事情により休業（廃業？）してしま

いました。ずっと歯科診療班が利用していたので残念です。このほか秋冬には休業する大きな旅館が1軒あります。また、地域おこし協力隊の一員として3年間焼尻に住んでいた若者が結婚を機に開設したゲストハウスがあります。やはり秋冬は休業です。ご主人は兵庫県出身、奥さんは青森県出身で歯科衛生士の資格を持っています。歯科診療班に応募して焼尻に数回行っているうちに島が気に入ったのか若者が気に入ったのか、地域おこし協力隊と結婚してしまいました。ゲストハウスには個室がなく食事の提供もないので、歯科診療班は利用したことがありません。

## 焼尻のサフォーク

サフォークはめん羊（緬羊）の一種。顔と足が黒いのが特徴です。ニシンが獲れなくなってから、1968年にオーストラリアから100頭を輸入して町営牧場が開設されました。島の中央部に広がる牧場では夏にはのんびりと草を食む羊たちを見ることができます。また、冬に備えて年に2回草刈りが行われ、牧草ロールが作られます。これが雪の季節にはサフォークの主食になるわけです。

飼育頭数は500頭ほど。サフォークは肉用種ではありますが、わずかに羊毛も利用されていて、羽幌では帽子、セーターなどを作る人もいます。ただ、産業と言えるほどではありません。島なので周囲は

海。潮風を受けて育ったミネラル豊富な草を食べているサフォークは羊特有の臭みがなく、絶品とされています。毎年1月から2月が出産シーズンで、羊舎に見学に行くと生まれて間もないチビちゃんたちで賑やかです。ところでマトンとラム、違いがわかりますか。マトンは1歳以上の大人の羊の肉、ラムは1歳未満です。毎年200頭前後がラムとして出荷されます。島では食肉処理ができないので生きたまま旭川の食肉処理場に送られ、大部分は東京や札幌の高級レストランで使われることとなります。元気で旅立った焼尻に変わり果てた姿となって戻ってくるのは僅かな量なので、島民でもなかなか食べることはできません。

8月には「焼尻めん羊まつり」が開催されます。数年前までは7月にやっていたので、たまたま診療の開始日や最終日と重なることがあって何度か参加しました。フェリーターミナルのそばに数十個の炭焼き台を並べ、特価で販売しているサフォークだけでなく、ウニ、ホタテなどの海産物、野菜などを焼いてみんなで食べましょうという企画です。焼尻のサフォークはしゃぶしゃぶ（ラムしゃぶ）やジンギスカン（ラムジン）で提供されることはなく、島では厚切りの炭火焼きが定番。塩コショウを振るだけの単純な味付けで十分です。寿命は10～12年といわれる羊をまだ子どものうちに殺して切り刻んで食べてしまうのですから、人間という生き物

は……。でも、本当においしいです。

## 星を見る

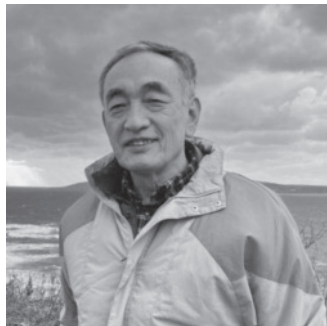
札幌では当然ですが、離島の焼尻でも人が住んでいる場所では外灯など人工的な光が邪魔をして、それほど多くの星は見えません。夏や秋の診療で島を訪れた時、条件のいい夜には車を出せる人を誘って星を見に出かけることがあります。たいていは島の西側、車で15分ぐらいの「鷹の巣園地」まで足を運びます。光といえば暗い海峡をはさんで4km先の天売島の灯りが見えるだけ、そして満天の星。水平線から水平線まで全部星空です。札幌では見ることが困難な銀河は文字どおり天の川として横たわり（横じゃなくて縦ですが）、有名どころの星座でもわからなくなるほど星の数が多いのです。また、5分ほど空を仰いでいるだけで、人工衛星が星空を横切っていく様子や流れ星を必ず見ることができます。必ず、です。夏ならばさそり座はちゃんとサソリの形になっていますし、札幌ではほとんど見えないかんむり座もきれいな王冠形に見え、秋にはアンドロメダ銀河が目視できます。

若かった時には山で見る星空に何度も圧倒されましたが、島で見る星空もたいしたものです。気が遠くなるほど先まで広がる宇宙を眺めると、小さな地球、さらにちっぽけな自分を感じたりもします。

島での見聞や体験をとりとめもなく書

き綴ってみました。40年もひとつの離島に通っているのは貴重な経験です。たまたま自分がそのような立場、環境にいたことによるものですが、自分の希望で通い続けているという面もあります。何事も自分の目で見、自分でやってみるこ

とが大切です。北大では昔から実学重視、フィールド重視の気風があり、自分でもそれが大事だと思っています。皆さんもできる範囲でいろいろチャレンジしてみたいかがでしょうか。👈

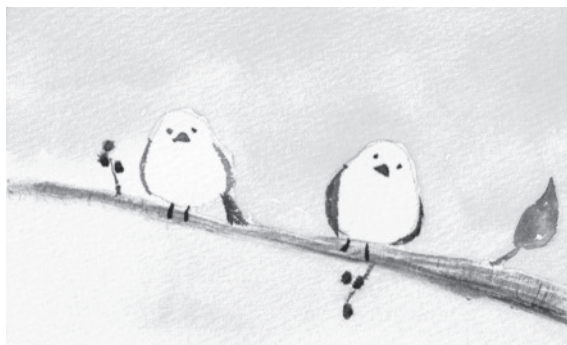


ほんだ・おかひと

一般財団法人巖鷲寮監事

1976年北海道大学歯学部卒業、2016年同大学院歯学研究科定年退職

北海道大学総合博物館ボランティア



## 第 66 代オホーツク総合振興局長に 就任しました

中島 和彦

北海道に開拓使が設置されてから 28 年後の明治 30 年 (1897) に網走支庁が設けられました。それから 125 年後の令和 4 年 4 月 (2022)、第 66 代のオホーツク総合振興局長 (平成 22 年 (2010) に支庁から総合振興局に改称) として就任しました。

### 青森県より広いオホーツク管内

管内は、18 市町村に約 27 万人が暮らしており、総面積 10,691 km<sup>2</sup> (青森県より広く、岐阜県とほぼ同じ)、雄武町から斜里町までの 280km に及ぶ海岸線 (東京・福島間の距離に匹敵) を有しています。気候は、冬の寒さが厳しいものの比較的穏やかで、降水量は少なく、日照時間も比較的恵まれています。

このような条件の下、小麦や玉ねぎ、てん菜などの畑作や草地を最大限に活かした酪農、国内有数の生産力を誇るホタテやサケ等の漁業、カラマツやトドマツ主体の林業・木材産業といった一次産業とともに、世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「世界自然遺産知床」など素晴らしい景観や流氷等を資源とした高品質な観光業が展開されています。

質な観光業が展開されています。

### 次々に起こる出来事

こうした資源に恵まれた地域の振興局長として就任しましたが、着任早々、新型コロナウイルスの感染拡大への対応に加えて、様々な出来事に見舞われ、あっという間に半年間が経過しました。

最初は高病原性鳥インフルエンザの続発です。昨年から国内外で頻発する中、管内は大規模養鶏場が多く (全道 3 位)、警戒を高めていましたが、4 月中旬に網走で国内初の大型家きん・エミュー等の感染が確認されました。農場は全国最多の約 500 羽を飼養していたため、我が国の 95% のエミューが殺処分との報道もあったところ です。

そして、直後の 4 月 23 日には知床遊覧船の海難事故が発生しました。乗員・乗客 26 名が消息不明となり、今も海上保安庁等による懸命な捜索が続いていますが、未だ 6 名の消息が判明していません。

また、6 月下旬から数回にわたって訓子府町を中心に玉ねぎなどの畑が降雹・集



中豪雨に見舞われ、500ha 近くが廃耕となりました。

さらに、網走湖畔の高台にあるホテルが、配管折損による 8,000 ㍓もの重油漏れを発生させました。網走湖の高品質なシジミやシラウオ、わかさぎへの影響、また、すぐ脇にはサケ・マスの稚魚を全道に供給する孵化場があることから、早急に対応するよう要請されています。

### カーボンニュートラルに向けて

このように直ちに解決すべき課題は山積ですが、中長期的にはカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいます。管内では、この 40 年間で冬の気温が上昇する中、漂着する流氷は約 30%も減少しています。流氷は、海を閉ざし、着氷

後の海風は厳しい寒さをもたらしますが、一方で豊かなプランクトンを運び、これを餌とする流氷開けの毛ガニ等は誇るべき逸品です。このため、地球温暖化の影響を流氷減少として可視化できる我が管内だからこそ、カーボンニュートラルの実現に向け、流氷トラスト運動として住民の行動変容につながるような取組を展開しています。

このように激動の半年間でしたが、管内は美味しい農産物やカニ、ホタテ等の水産物といった食とともに知床の景観などの非常に優れた資源に恵まれていますので、こうした価値をより一層高められるよう、第 66 代総合振興局長として、今後とも、しっかり取り組んでいきたいと考えているところです。↩



なかしま・かずひこ

1988 年北海道大学農学部卒業・卒寮  
1988 年北海道庁入庁。総合政策部政策局参事、  
農政課長、農政部次長などを経て  
2022 年北海道オホーツク総合振興局長

# インフレの損得勘定

高橋 元氣

インフレーションが大きな話題になっています。2022年10月の物価上昇率は3.6%と40年ぶりの高水準となり、食料品を中心とした価格改定は「値上げの秋」と呼ばれました。

ここではインフレをめぐる3つの問題を扱います。1つはインフレが誰にとって得で、誰にとって損なのか。2つ目は世界と比較して日本のインフレにはどんな特徴があるか。最後には今後の物価見通しについても触れます。

さて最初の問いからです。インフレは誰にとって得で、誰にとって損なのか。このように問いかけるのは、インフレが人々にもたらす影響は、置かれた立場によって異なるためです。自明なことと感ずるかもしれませんが、この問題は多くの論点を含んでいます。

## その物価は誰のものか

インフレとは物価上昇を指しますが、その際の「物価」とはなんでしょうか。普段ニュースで取り上げられる物価とは「消費者物価指数(CPI)」と呼ばれる集計値です。政府が代表的な家計が消費しているとみられる商品の価格を毎月測定し、

加重平均を計算して公表しています。測定品目には目薬、ビール、携帯電話料金から家賃に至るまで582品目が含まれています。

実はこの退屈な定義から、物価をめぐる不平等が始まります。物価は「経済の体温を示す」と言われますが、個々人の生活と一対一で対応するわけではありません。例えば10月はCPI品目のうち「焼き魚」が18.9%も値上がりしましたが、魚を食べない家庭は値上がりを実感しなくて済みます。同様に携帯電話料金の値下がりを実感するのはスマホの乗り換えを経験した消費者だけで、そもそも携帯を持たない高齢者には関係ありません。

ニュース番組の街頭インタビューには「私の体感では物価が10%上がっている」という人が出てきますが、この感覚は現実を表しています。個人の物価上昇率を測定した研究によると、インフレ率が0%の時期でも、個別の家計はマイナス10%からプラス10%の幅で物価を体験していました(渡辺努『物価とは何か』(2022年))。つまりインフレ率は経済全体の動向を語ってはいますが、個人や家計が直面する物価は千差万別なのです。

このような物価をめぐるマクロとミクロの不整合は、不平等の問題の入り口にすぎません。インフレをめぐる勝ち負けはもっと別なところにも生じます。

仮に物価が100倍に上がったとしても、同時に給料や年金も100倍になっていれば何の問題もないでしょう。しかし残念なことに、物価や賃金、金利など様々な値段は一緒に動いてくれません。実際、物価に対して給与がどれだけ増えたかを表す「実質賃金」は22年10月まで7ヶ月連続で減少しました。原則として年1回しか水準を改定しない年金はもっとひどい状況で、22年度の支給額は前年度比0.4%の減額となりました。前の年度に物価が下がっていた状況を反映したためですが、年金生活者にとっては大変苦しい状況となっています。

## インフレで得をする「実業家」

このように書いてくると、「インフレは庶民の敵」という一般的なイメージを補強しているだけのように聞こえるかもしれませんが、しかしここで付け加えたいのは、金持ちもインフレで大きな損失を被るという点です。

なぜかという、インフレは貯金を目減りさせるためです。銀行の定期預金を考えてみてください。日本ではほぼ0%に近い金利水準が続いてきましたが、物価が上がっても金利はすぐに上がって来ません。日本の場合は国債の金利も低水

準のままです。資産から得られる利益に対して物価の方が速く上昇してしまうと、貯金や国債を多く持っている人の財産は減価してしまうのです。

さて、庶民にも金持ちにも害悪だとしたら、インフレは万人の敵なのでしょうか？ そうではないと考えるのが、20世紀を代表する経済学者のジョン・メイナード・ケインズです。

ケインズはインフレで得をするのはズバリ「実業家」だと述べています。第一次大戦が起きた1914年から20年にかけて、英国をはじめ当時の先進国は年率20%に達する高インフレを経験しました。これにより「貯蓄に励んできた」中産階級の資産が目減りしたのに対し、ビジネスを営む実業家は得をしたとケインズは指摘します（『通貨価値の変動が社会に与える影響』（1923年））。

なぜかといえば、実業家は自らが販売する商品の値段を、インフレに合わせて自由に決められるからです。言い換えれば世のインフレを理由にして、どんどん値上げできるのが実業家の立場です。

これは現代にもそのまま当てはまります。現在のインフレはウクライナ戦争に端を発した原油高が大きな要因の1つですが、米エクソンモービルなど石油メジャー5社の22年4～6月の純利益は624億ドル（約8.7兆円）と過去最高水準となりました。値上げにより空前の利益を上げた石油会社は欧米で「儲けすぎ」という

批判にさらされ、英国などでは石油メジャーの超過利潤に課税しようとする動きすら出ています。

## 日本企業は「我慢」しているのか？

実業家の他にも、インフレになると借金も目減りするため、多額の債務を追っている個人や組織も得をすることになります（その代表は多額の国債を発行している日本政府でしょう）。

さて、この辺で話を現代の日本に移します。まずは日本のインフレの状況が世界と明らかに異なっている点から見ていきましょう。

まず足元 22 年 10 月の消費者物価上昇率を並べてみると、日本の 3.6% に対して米国は 7.7%、欧州の 10.7% と 2～3 倍の開きがあります。新型コロナ禍による供給の制約や原油高といった条件は似ているのに、どうしてこのような差が生じているのでしょうか？

この問いに対する一般的な答えは「日本企業が価格転嫁に慎重だ」というものです。実際、米国では企業の仕入れコストを示す卸売物価指数が 8% 上昇に対して販売価格を表す CPI は 7.7% 上昇、日本では 9.1% 上昇（企業物価指数）に対して CPI は 3.6% 増にとどまります。原材料などのコストが上昇しても、値上げすれば消費者が逃げるので販売価格は据え置く。結果として利益が圧迫され、日本の経営者は「我慢」を強いられている……。そんな

な解説を一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

確かに我慢を強いられている経営者は多くいるでしょうが、それだけで世界的にみて緩やかな日本のインフレ状況を説明できるとは思えません。少し異なる角度から企業の価格設定について考えてみます。

足元の日本企業は、「我慢」により利益を失うのとは対照的な状況にあります。財務省の「法人企業統計」によると、22 年 4～6 月の経常利益は製造業、非製造業とも過去最高の計 28 兆円に達しました。業績好調の要因はなんのでしょうか？

例えば日本を代表するアパレルメーカーのファーストリテイリング（ユニクロ）をみてみましょう。ユニクロは 22 年 8 月期の純利益が過去最高の 2733 億円を記録しましたが、最大の要因は円安でした。

ユニクロは今や売上収益の 6 割を海外で稼ぐグローバル企業です。ドルなど外国の通貨で販売した売上を円に置き換えるとき、円安になるほど金額は膨らみます。こうした「為替差益」による利益の押し上げ効果は 1100 億円と、ユニクロの純利益の 4 割を占めました。

円安による利益の押し上げ効果は日本企業全体でも観察できます。法人企業統計によると 22 年 4～6 月に日本企業が受け取った利息の合計から支払い利息を引いた純収支は 6 兆円と、前年同期から 70% も増えました。グローバル化した日

本企業は海外に多額の資産を持っているので、円安により受け取り利息が増えたのです。経常利益全体の伸びが4兆円、17%ですから、この数値のインパクトは非常に大きいと言えるでしょう。

## 値上げを遅らせる大企業

つまり円安により大企業を中心としたニッポン株式会社は全体としてみれば財布の中身が膨らんでいます。さらに日本企業が海外では積極的な値上げをしていることも知られています。

しかしグローバル展開する日本の大企業が、国内でも大幅に値上げしているという話はあまり聞きません。その代表がトヨタ自動車で、海外市場の一部では値上げしているものの、22年11月時点で日本の販売価格は維持したままです。

大企業が市場全体の価格動向に占める割合は大きく、約1万社について調べた研究では上位100社(1%)だけで全商品の57%の価格を決めていました。つまり日本は大企業が値上げしない限り、本格的なインフレは起きないといえます。なぜトヨタをはじめとした日本のグローバル企業は値上げしないのでしょうか？

私は円安で潤っているグローバル企業ほど、戦略的な判断から値上げを「遅らせている」と考えています。

最大の理由は、海外に比べた日本の消費者の「値上げ嫌い」です。物価研究で知られる東大の渡辺努教授が日本を含む5

か国で「スーパーで10%の値上げを目にしたらどう行動するか」を消費者に尋ねたところ、「他の店に行く」と答えた割合が日本では57%に上ったのに対し、米英カナダ、ドイツの4か国では40%以下にとどまっていました(21年8月時点)。

日本企業は他国と比べて値上げ嫌いの消費者を相手にするため、シェアが低下する恐れのある値上げを避けてきました。各国で企業の価格改定状況を調べた研究によると、欧米では1~2%の値上げが最頻値だったのに対し、日本では圧倒的多数がゼロ、すなわち据え置きでした。

それでも原材料価格など仕入れコストが広範に上昇する現在、収益を圧迫される一部の企業は値上げせざるを得ません。仕入れを海外に頼り、国内市場だけを相手にしている企業ほどそうでしょう。逆に海外で利益を上げられるグローバル企業は、販売価格を据え置くことにより、日本市場ではシェアを高めるチャンスを得ているといえます。私がグローバル企業が戦略的に値上げを遅らせているのはこのためです。

対して欧米のグローバル企業は国内でも国外でも大幅な値上げを実現しています。先に挙げた石油メジャーだけでなく、ネスレやP&Gなど日用品メーカーも値上げにより大幅な増益を記録しました。こうした企業はインフレ下で賃上げを求める従業員の圧力にもさらされるため、なおのこと値上げを追求するようになり

ます。さらに賃金を上げなければ他社に人材を奪われるリスクにも直面します。

## 値上げも「みんなで渡れば…」

日本企業も海外では欧米企業と同じように振る舞うため、値上げや賃上げに踏み切ります。一方、国内では異なる行動様式の消費者を相手にしているため、現状ではグローバル企業ほど価格を維持していると私は考えています。

ただ環境は少しずつ変わりつつあるようです。22年10月に日銀が発表した「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」によると、21年9月時点では全品目の4割近くの価格が「据え置き」だったのに対し、1年後の22年9月には据え置き派が2割近くまで低下しました。同じ日銀の分析は、日本企業が「競合先の値上げが広がるにつれて、コスト転嫁を進める先が非線形に増加する関係が窺える」と述べています(10月展望レポート(BOX3))。

言い換えれば、周囲に値上げが広がってくると、値上げに踏み切る企業が一気に増える傾向があるということです。お隣さんの値上げを見て「赤信号、みんなで渡れば……」とばかりに値上げする企業が今後増えていくのかもしれませんが。

さて、この辺で将来の物価動向についても触れておきましょう。

専門家の多くは、2023年にかけてインフレは落ち着くと見えています。日銀は22年度の物価見通しを2.9%まで引き上げ

たのに対し、23、24年度は1.6%に落ち着くと見込んでいます。原油価格が足元では落ち着く傾向にあり、米国をはじめ海外のインフレも徐々に収まっていくと考えているためです。

私も基本的には同じ見通しですが、2つのリスクがあると思います。1つは台湾情勢を含む米中対立の先鋭化です。現在の世界的なインフレは複合的な要因から生じていますが、中国に端を発する供給網の混乱も物価を引き上げました。

新型コロナに対する中国の「ゼロコロナ」政策は、物流の停滞＝モノ不足を通じて物価にも大きな爪痕を残しました。米ニューヨーク連銀のエコノミストらは、欧米の物価上昇のうち2分の1から3分の1が供給網の混乱からもたらされたと分析しています。

## 危うい専門家バイアス

今後、米国が中国に経済制裁を課したりする事態が発生すれば、インフレを再燃させるリスクは大いにあります。

もう1つのリスクは専門家のバイアスです。先に見た日銀の物価見通しは、金融市場に通じた専門家が形成した予想にすぎません。日々の物価を決めているのはライバルの動向を気にする企業であり、その先には日銀のことなど意識していない消費者が存在しています。企業や消費者が抱く物価見通しは専門家の予想とズレる場合が多く、現在は普通の人の方が

専門家より将来のインフレ率を高めに見込んでいます。日本の場合は先に見たように企業の値上げ判断が遅れていることもあり、23年に入ってもしばらくインフレが収まらない可能性はあるでしょう。

さて、こうしたインフレのリスクが生じず、物価が元の動向に収まることを皆さんは願うでしょうか？ それは日本の場合、物価上昇率がゼロ～1%程度に落ち着く状況です。言い換えれば、いつでも物価下落、すなわちデフレに落ち込みかねない経済への回帰です。

かつてF R B 議長を務めたアラン・グ

リーンスパンは日本のデフレがなぜ悪いのかについて、「企業が価格支配力を失うためだ」と米国民に説明しました。日本企業は価格を据え置く傾向が強いですが、自由に価格を決められない企業は新製品を生み出す力も弱くなり、ひいては経済全体の活力が失われることをグリーンズパンは危惧しました。

みなさんはインフレとデフレのどちらが望ましいと思うでしょうか。インフレもデフレもない経済は実現可能なのでしょうか。読者諸賢のご意見やご批判をお待ちしています。☺



たかはし・もとき

2003年卒寮（同年北海道大学経済学部卒業）

日本経済新聞社総合解説センター次長

（注）この文章は2022年11月時点の情報に基づいて書かれました。内容は筆者の所属組織と関係するものではなく、個人的な見解です。

（参考文献）

渡辺努『物価とは何か』講談社選書メチエ 2022年

ジョン・メイナード・ケインズ『説得論集』日本経済新聞出版 2021年

## 好きなロケットは何ですか？

佐藤 剛

男の子は車好きか鉄道好きかに分かれる、とよく言われます。私は幼少時は車だったようですが記憶にはなく、中学に入る頃にはロケット好きになっていました。ただ本物を見る機会も無いので雑誌を見て満足する程度です。今も実物を見たことのない緩いマニアのままですが車談義のような雑談と思い、お付き合い下さいましたら幸いです。

### なれそめ

興味を持ち始めた 1980 年代はスペースシャトルが運行を始め、日本では H-I ロケットが開発されている時期です。雑誌でもバラ色の未来が描かれた前向きな記事が多かったように思います。当時好きだったエンジンはスペースシャトルのメインエンジン (RS-25) です。オレンジ色のスパークとともに点火されると青白い燃焼炎が噴射され白いショックダイアモンドが点々と形成される様子は美しく、ジンバルが作動する様子は生き物のようでした。

### 東西冷戦とその後

当時は東西冷戦末期でもあり、今のロ

シアを主体とするソビエト連邦は西側にとって強大な仮想敵国でした。その宇宙開発の情報も軍事機密とされ我々が得られる情報は少なく、また当時のロケット関連の記事は西側に過度に好意的に書かれていたように思います。私が当時東側に抱いた印象は、昔は優れていたけれども古い設計のロケットを使い続ける遅れた国、というものでした。

その後米ソの冷戦が終わりを迎えます。次第に情報が入ってくるようになり、更にロシア製のロケットやエンジンが西側の宇宙開発に用いられるようになります。代表的な例はロシア製の RD-180 を用いるアトラス V ロケットです。アトラス V は米国の軍事通信衛星の打ち上げにも用いられ国防上も重要なはずですがロシア製のエンジンに依存してしまっています。

### 液体水素 対 oxidizer-rich プリバーナー

実はロシアのロケットエンジンはとても優秀でした。そして西側のエンジンとは進化の方向も違いました。どう異なるのか簡単にまとめてしまうと燃料と燃料ポンプの駆動方式の 2 点が重要だと思



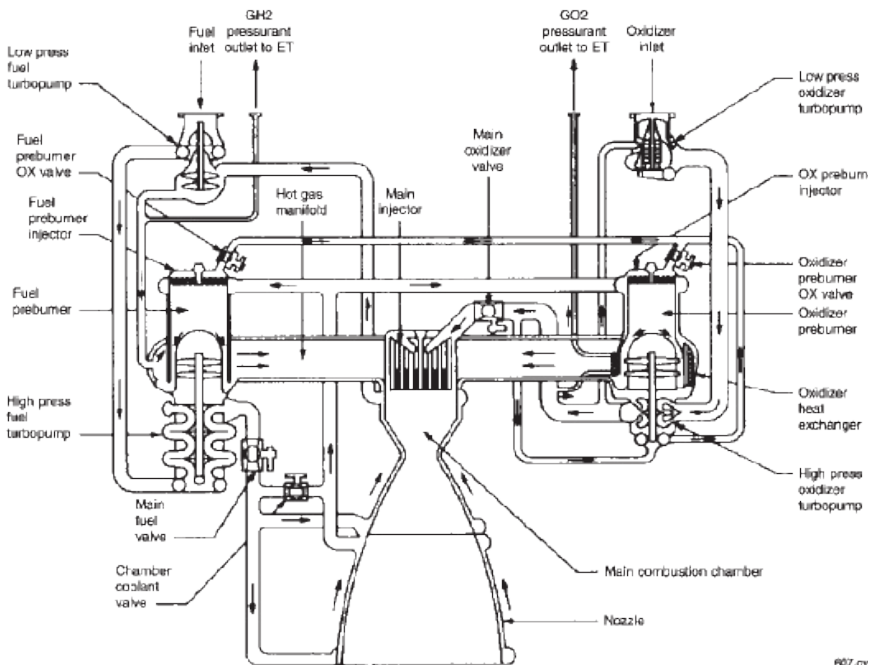
ます。

一つ目の燃料ですが、各国の代表的な大型ロケットは「燃料」と「酸化剤」と呼ばれる役割の異なる 2 種類の液体の化学反応によるエネルギーを用いて推力を生み出す「液体燃料ロケット」を主エンジンに採用しています。そのうち酸化剤については主な大型ロケットではロシアも西側も液体酸素を用います。

しかしもう一方の燃料は異なります。ロシアの大型ロケットの第 1 段は殆どが灯油（ケロシン）を燃料とするエンジンを用います。それに対し西側の花形ロケッ

トは殆どが液体水素を燃料とするエンジンです。

燃料を液体水素、酸化剤を液体酸素とする組み合わせはロケットの父とも呼ばれるツオルコフスキーも指摘していた究極の組み合わせです。これを用いた第 1 段用のエンジンを最初に実用化したのは米国で、それが前述の RS-25 です。NASA（米国国家宇宙局）の次期月ロケット SLS のメインエンジンにも採用されています。それ以降、日本は H-2 ロケットの LE-7、欧州はアリアンロケットの Vulcan と西側ではこぞって大型の液体酸素/液体水素



RS-25 の概略図 (NASA, public-domain, Wikimedia Commons より)

主燃焼室(中央)の左右に 1 組ずつ描かれているのがプリバーナー及びターボポンプ

エンジンの開発が進められます。

ロシアと西側のロケットのもう一つの違いは燃料ポンプの駆動法です。大型ロケットの場合、燃料と酸化剤を高圧で大量にエンジンに送り込むため強力なターボポンプを用います。そのため「プリバーナー(予燃焼室)」と呼ばれる所で燃料を燃焼させて高圧のガスを作り、その流れでタービンを回しポンプを駆動します。

ここで重要なのはプリバーナーでは完全燃焼させないことです。タービンを回す程度には高圧だけれども配管にダメージを与えない程度の温度に収まるように燃焼させます。その方式がロシアと西側とでは異なります。

西側のロケットはプリバーナーで燃料(水素)に対して供給する酸素を燃焼に必要な量よりずっと少なくして(燃料を過剰にして)“fuel-rich”な高圧ガスを生成しタービンを駆動します。ロシア製の高性能エンジンの場合、逆にプリバーナーでは酸化剤(酸素)に比べ燃料を少なくして“oxidizer-rich”な高圧ガスを作ります。するとそこそこ高温で高圧の酸素ガスが発生しますので通常の配管では酸素と反応し破壊されてしまいます。そこを克服できたのがロシアで、西側では今もoxidizer-richなプリバーナーを用いる大型ロケットは実用化されていません。

西側もスペースシャトル以前は燃料にケロシンを用いていましたがプリバーナーはfuel-richです。すると燃料の不完全

燃焼でできた煤やヤニの様なものが配管にこびり付き問題となります。特にエンジンを再使用するスペースシャトルには不都合なはずで、西側が液体水素燃料に傾いた理由の一つはoxidizer-richなプリバーナーを活用できなかったことにあるのかもしれませんが。

## 新興民間企業の台頭

日米欧の宇宙開発機関が水素燃料に注力する一方で、新興の民間企業が登場し水素以外の燃料を用いるエンジンを開発しています。圧倒的な成果を上げているのElon Musk氏らが立ち上げたSpaceX社です。同社のFalcon9ロケットは第1段を使用後にそのまま自力で着陸させて再利用することに最初に成功した画期的なロケットです。Falcon9のエンジン(Merlin)はケロシンを燃料とし、ターボポンプの駆動に用いるガスはfuel-richです。堅実でシンプルな方式を採用しつつも、上空での再点火や柔軟な出力調整が可能な優れたエンジンです。

Falcon9はこのMerlinを第1段に9基、第2段に1基用いるロケットで、2段目専用のエンジンを作らず1種類のエンジン及びその派生型で済ませてコストを抑えています。今年(2022年)は10月末時点で既に約50回も打ち上げを成功させるなど、羨しくなるくらい順調です。

そのSpaceXは現在2段式で完全再利用可能な超大型ロケットを開発中です。

その第1段、第2段両方で用いる新型エンジン (Raptor) は、液化メタンを燃料とし「フルフロー2段燃焼サイクル」と呼ばれる oxidizer-rich と fuel-rich 両方のプリバーナーを用いる革新的なものです。Raptor は既に完成し第2段ロケットの打ち上げと、その後の着陸にも成功しています。

## おわりに

以前読んだロケット開発者の伝記には、良かれと思いロケットの部品に些細な改良を加えたら理由は全く不可解ながらそれが事故 (大抵は大爆発) をもたらしてしまう、というエピソードがいくつか紹介されていました。また外国のドラマ等でも "It's not rocket science." というセリフを耳にします。「極端に難しい事柄ではないんだから (何とかなるよ)」という意味の表現だと思いますが、人知を超える様に思えるほど絶妙なバランスの元で動作するロケットを作ることが如何に困難か、この慣用句に表されているのだと思います。

傍観者の憶測に過ぎませんが、その困難さと用途が特殊である故の需要の少なさが「うまくいっているものは変えるな」という前例踏襲的な開発方針を有利にし、東西のロケットの進化の方向の違いを大きくしたのではないかと思います。その中でたった20年前に「人類の火星移住を

実現する」という大風呂敷を広げて創業者個人の資産を元手に設立された SpaceX が、ライバルの民間企業や国家機関と比べてずっと少ない資金で次々に革命的な技術革新を成し遂げていく様は注目に値すると思います。

憧れだったスペースシャトルがコスト増大に苦しんで引退し10年経った今、SpaceX は真の宇宙往還機を完成させようとしています。また北海道でもインターテラテクノロジズ社が民間企業単独では日本で初めて (世界でも4番目) 宇宙空間への到達に成功したロケット (MOMO) に続き、超小型衛星の打ち上げを目指す新型機 ZERO を開発中です。久々に中学生の頃のようにわくわくしています。↩



さとう・こう

岩手県一関市花泉町出身、1992年北海道大学理学部数学科卒業、1995年北海道大学理学研究科博士後期課程中途退学卒業。  
現在、小樽商科大学商学部社会情報学科助教



## 一般財団法人巖鷺寮定款

(2017年6月9日一部変更)

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般財団法人巖鷺寮と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を北海道札幌市に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、主として岩手及び青森両県全域並びに秋田県の一部旧南部藩領の出身者、又はそのゆかりの子弟にして、札幌市近郊の大学に在学する学生の勉学に資し、秩序ある共同生活を通じて、健康の増進と、品性の陶冶を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生寮「佐藤・新渡戸記念寮（旧称：巖鷺寮）」の維持経営
  - (2) 寮生の心身鍛錬、教養向上のための行事及び会合
  - (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項第1号から第3号までの事業は、札幌市において行うものとする。

## 第3章 資産及び会計

(基本財産)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第7条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度開始の日の前日まで

に、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置きするものとする。

#### (事業報告及び決算)

第8条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

- 2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置きするとともに、定款を主たる事務所に備え置きするものとする。

- (1) 監査報告

#### (剰余金の分配の制限)

第9条 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

## 第4章 評議員

#### (評議員)

第10条 この法人に評議員6名以上15名以内を置く。

#### (評議員の選任及び解任)

第11条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

#### (任期)

第12条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第10条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

#### (評議員に対する報酬等)

第13条 評議員は、無報酬とする。ただし、評議員には、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。

## 第5章 評議員会

### (構成)

第14条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

### (権限)

第15条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任及び解任
- (2) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- (3) 定款の変更
- (4) 残余財産の処分
- (5) 基本財産の処分又は除外の承認
- (6) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

### (開催)

第16条 評議員会は、定時評議員会として毎年度決算終了後、3ヶ月以内に開催するほか、必要がある場合に開催する。

### (招集)

第17条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

### (決議)

第18条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
  - (1) 監事の解任
  - (2) 定款の変更
  - (3) 基本財産の処分又は除外の承認
  - (4) その他法令で定められた事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第22条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(決議の省略)

第19条 理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

(報告の省略)

第20条 理事が評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第21条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。  
2 出席した評議員のうちから、当該評議員会において選任された議事録署名人2名以上が、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 役員

(役員の設定)

第22条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事6名以上9名以内
- (2) 監事2名以上3名以内
- 2 理事のうち1名を理事長、2名以内を常務理事とする。
- 3 前項の理事長をもって法人法上の代表理事とし、常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第23条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。  
2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第24条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。  
2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。  
3 理事長及び常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)



第25条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第26条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第22条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第27条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第28条 理事及び監事は、無報酬とする。

(顧問)

第29条 この法人に、任意の機関として、若干名の顧問を置くことができる。

2 顧問は、次の職務を行う。

(1) 理事長の相談に応じること

(2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること

3 顧問の選任及び解任は、理事会において決議する。

4 顧問の報酬は、無償とする。

## 第7章 理事会

(構成)

第30条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第31条 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

### (3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

#### (招集)

第32条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

#### (決議)

第33条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

#### (決議の省略)

第34条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、この限りでない。

#### (報告の省略)

第35条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。ただし、法人法第197条において準用する同法第91条第2項の規定による報告については、この限りでない。

#### (議事録)

第36条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

### 第8章 定款の変更及び解散

#### (定款の変更)

第37条 この定款は、評議員の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第3条及び第4条及び第11条についても適用する。

#### (解散)

第38条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

#### (残余財産の帰属)

第39条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第40条 この法人の公告は、官報に掲載する方法により行う。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条1項に定める特例民法法人の解散の登記と、一般法人の設立の登記を行ったときは、第6条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

別表 基本財産 (第5条関係)

財産種別	場所・物量等
土地	462.80平方メートル 札幌市中央区北7条西18丁目4-23
	69.41平方メートル 札幌市中央区北7条西18丁目28-191
建物	579.01平方メートル 札幌市中央区北7条西18丁目4-23 地下1階付2階建

以上 当法人の定款である 理事長 昆泰寛

## 一般財団法人巖鷺寮規則

## 〈前文〉

- 1 当寮は、大正末期・北大に学ぶ岩手県出身者の学生の要望に応じ、当時の北大総長佐藤昌介氏の主唱と、これに呼応した北大教官の奔走、岩手県及び旧南部領の先輩の物心両面からの善意とにより創立された学生寮である。
- 1 当寮は、札幌市に遊学する岩手県、青森県域、旧南部藩並びにこれら地域にゆかりのある大学生を収容するとともに、責任ある社会人への修練の場として存在するものである。
- 1 寮生は、建寮の精神を自覚し、寮生活を通じて互いに切磋琢磨し、優れた社会性を習得し、あわせて寮の発展に尽力しなければならない。

## 〈目的〉

第1条 この規則は、一般財団法人巖鷺寮の管理運営について、必要な事項を定めることを目的とする。

## 〈名称〉

第2条 当寮は「佐藤・新渡戸記念寮」と称する。

## 〈管理運営並びに責任者〉

第3条 巖鷺寮の管理運営は一般財団法人巖鷺寮理事会によって行われ、理事長をその責任者とする。

## 〈寮生の構成〉

第4条 当寮は、岩手県、青森県全域及び両県にゆかりのある大学生により構成される。ただし、欠員を生じたときはこの限りではない。

## 〈施設、設備保全の義務〉

- 第5条 管理運営責任者は寮の施設、財産の保全及び改善につとめるものとする。
- 2 寮生は寮の施設、財産の保全及び防火管理並びに寮内環境の整備向上及び保健衛生管理に努めなければならない。不当に寮の施設、財産を損傷又は滅失したときはこれを賠償しなければならない。

## 〈寮の行事〉

第6条 財団はその設立の主旨に基づいて、寮生の協力のもとに創立記念祝典、談話会などの行事を行うものとする。

## 〈寮生活の自主運営〉

第7条 寮生活の自主運営に関しては、寮長をもってその責任者とし、寮長は管理運営責任者の承認をえて、寮生活の自主運営を行うものとする。

2 寮生活の健全で円滑な運営のため、必要に応じて寮生大会及び寮協議会を開催する。

#### 〈会計〉

第8条 寮生は、別に定める寮費（部屋代及び寮生活費）を納入しなければならない。財団及び寮における生活は、この寮費によって運営される。

2 寮費収入の10分の2については、財団運営のための収入とする。

#### 〈入寮手続〉

第9条 当寮に入寮を希望する者は、所定の書類を添えて、管理運営責任者に提出しなければならない。

2 入寮選考は、希望者の人物・経済状態等を考慮の上、特別（選考）委員によって行われる。管理運営責任者は、その報告をうけ入寮の許可を行う。

3 入寮の許可を受けた者は、直ちに誓約書を提出し、入寮費、敷金、及び一か月分の寮費を納入しなければならない。

4 入寮の許可を受けた者が前項の手続きを怠ったときは、入寮の許可を取り消すものとする。

5 在寮期限は、原則として入寮時における進学系列の最短修業年限とする。

#### 〈退寮〉

第10条 退寮を希望する者は、管理運営責任者の定める手続きに従わなければならない。

寮生が次の事項に該当したときには、退寮させることができる。

①寮の風紀、秩序をみだすとき。

②寮の名誉を著しく損なうとき。

③寮費を3か月以上滞納したとき。

#### 〈自主運営に必要な事項〉

第11条 寮生活の自主運営に必要な事項は管理運営責任者の承認をえて別にこれを定める。

#### 附則

1 この寮規則は、昭和62年4月1日から施行する。

1 この寮規則の一部変更は、理事会で決定した日(2013年2月16日)から施行する。

## 2022年度巖鷺寮役員名簿

役職	氏名	勤務先
顧問	高木 信夫	北海道大学名誉教授
顧問	小笠原 正明	北海道大学名誉教授
顧問	佐藤 馨一	北海道大学名誉教授
顧問	渡辺 崇彦	日本データサービス・FC 日本データサービスホールディングス社長
顧問	千葉 博正	元札幌大学経営学部教授
理事長	昆 泰寛	北海道大学大学院獣医学研究科教授
常務理事	中島 和彦	北海道庁職員
理事	横澤 宏一	北海道大学大学院保健科学研究院教授
理事	長山 由起夫	北海道庁職員
理事	佐藤 剛	小樽商科大学助教
理事	塚本 博隆	北海道新聞社社員
監事	本多 丘人	元北海道大学大学院歯学研究科准教授
監事	千葉 和幸	元札幌駅総合開発（株）
監事	中尾 明子	中尾天法律事務所
評議員	櫛引 正	八戸高校同窓会札幌支部顧問
評議員	齋藤 彰	巖鷺協会（札幌岩手県人会）副幹事長 ソニー生命保険（株）社員
評議員	小澤 和男	札幌中央福音キリスト教会牧師
評議員	岡崎 克則	北海道医療大学教授
評議員	柴田 剛	日本データサービス（株）
評議員	窪田 春海	（株）ドーコン社員

## 編集後記

❖ 寮誌といえば、寮生ページの文章を締切りの前日に慌てて書き始めるものだという程度の認識でした。今年をはじめ寮誌係をさせていただいて、小笠原先生をはじめ、多くの方のご尽力のもとに出来上がっているのだということを改めて感じました。寮誌係の仕事は、主に、寮生の皆様の原稿を回収することです。提出された原稿をいち早く読めるところが、寮誌係のおすすめポイントです。普段はあまり話さない方の近況を知ることができて、読んでいてとても楽しいです。今年は、皆様のご協力のおかげで17人中なんと16人の方が提出してくださりました。また、提出していない人も、「出す気はあったが、パソコンの不具合でデータが消えてしまった。本当は忙しい合間を縫って頑張って書いたのに」と陳述していました。来年の寮誌係の方は、必ず一号室の原稿を回収して、私の無念を晴らしてください。ユーモアのレベルを超えたドアの飾りも撤去させましょう。よろしく願いいたします。

(遠藤 志麻)

❖ いきなりですが名前について。戸籍法の改正で、来年から名前の読み仮名を国に登録するようになるそうです。私は「元氣」と書いて「モトキ」と読むよう

名付けられましたが、子供の時は「ゲンキ」と間違っって呼ばれるのが嫌でした。それが会社に勤め出してからは、覚えやすい名前はありがたいことと思うようになり、今は「ゲンキ」と呼ばれても訂正しません。だから「ゲンキ」と呼んでくれる人と、「モトキ」と呼んでくれる人の割合は、半々くらいになったような気がします。

来年、読み仮名が登録制になった時、親から授けられた読みと、社会的に通じていたり、自らが好む読み方と、どれを登録しようかと迷う人がいるのではないかと想像しています。いかがでしょう？

小笠原先生から寮誌に何か経済問題を書いて欲しいと依頼を受け、ありがたいことと引き受けましたが、どうも恥ずかしくてなりません。経済学部で学び、職業柄、経済を理解していなくては思いながら、ちっとも理解が進んでいないためです。

ですので来年は、編集委員として、もつとためになることや、楽しいこと、その他を書いてくれる人を探すのに精を出したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(高橋 元氣)

❖ 昨年、五十歳になりました。時期を同じくするようにして肩が痛むようになりました。長く続くので病院に行ったら「肩関節周囲炎、いわゆる五十肩というやつですね」。自分の体は年相応だということを痛感しました。かつては「人生わずか五十年」とうたわれたものですが、日本人の寿命は着実に延びています。定期的に寮生たちと交流の機会を持ち、若い感性に触れているのも、脳の活性化の一助になっているのかもしれませんが。人生の後半も頑張っていきたいと思えます。

(塚本 博隆)

❖ 最近大いに興味をひいたものとして、友人がメールにて送ってきた書類のコピーがあります。

以前から瀬島龍三という人物に興味があり、一杯飲みながら話題にしたことがありました。そのコピーの内容を見ますと、昭和20年8月27日付けで、「防諜(軍事機密)」とかかれていました。発信者が総参謀長(次長宛?)で「原子爆弾の件」「長崎ヨリ東京ニ持帰りタル不発原子爆弾ヲ速カニ『ソ』聯大使館内ニ搬入保管シオカレ度、返。」この書類の主任欄に「瀬島」の名前有。彼はその後シベリア抑留期間があるので、この件も何らかの関係があるのではと思っていますところですが、寧ろ新たに不発弾の件の方が驚きです。もうちょっと調べたい。

次々と好奇心が沸き起こってきます。

私が瀬島隆三を意識した発端は「小野寺信」という人物です。私の故郷(岩手、一関市)の隣、前沢町(現 奥州市)の出身者です(奥様の百合子さんはフィンランド民話「ムーミン」の翻訳者として有名になります)。彼は第二次大戦時ストックホルム駐在陸軍武官をしていた時に、かの有名な「ヤルタ会談密約」(スターリンはドイツ降伏後三か月で対日攻撃に出る)を日本に打電していました。この時大本営作戦課にて対応していた瀬島隆三がこの情報を握りつぶしてしまいます。

元々は「小野寺信」を知りたくて色々調べたりした延長に「瀬島隆三」があり、飲んべえ仲間との話題にのせただけでした。これを覚えており何かの折に私に情報を送ってくれた様です。

ここ2、3年程コロナ禍で友達と一杯飲んで雑談する事も無くなってきていました。少し残念なことです。

学生時代は専門分野の勉強は勿論、他の人と色々接する機会があれば、大いに繋がりを深めることにより、より広い分野での話が入ってきます。一生の友達も出てきます。寮生活はまさにそのような環境が十分に備わっています。その環境を十分生かしてほしいものです。

今年は東京一心会の再開を予定したいと思っています。お楽しみに。

(鈴木 文明)



❖ 今回は編集に携わることが無く、投稿によって却って小笠原さんにお手を煩わせる事態となった。出版業界における校正系のポストは一般的に軽んじられている、と思っていた。しかし本誌に原稿を提出してからは、編集の約束事への統一、文字の誤り、数字の間違いというレベルに止まらず、誤った内容の指摘、読みやすい・理解しやすい表現への助言があつて、ようやく一つの作品が出来上がるという事を実感した。今回、八校目にしてようやく脱稿となった。編集に携わる者として大いに勉強させられたが、我ながら非常に出来栄の良い原稿となったのは、校正していただいた小笠原さんの博識によってであり、大感謝である。

今回、豊山千蔭さんを取り上げたが、時代が変わりますます先行きが不透明となっていく世の中でも”温故知新”という格言は生きていくと思う。先人たちの業績を見返し、なぜ、どのように青雲の志を立て、実践し、社会貢献していったのか、そのエネルギーの源泉を知り、エキスを少しでも吸収して、残余の人生の社会貢献につなげていきたい。

(大久保 勉)

❖ 本号で取り上げた鈴木彦次郎は、戦時中に盛岡に疎開し、そこを拠点に活躍した作家です。相撲や芸事について書かせたら右に出る人はいませんでした。本

寮は北大獣医学科教授の葛西勝彌により創設されましたが、彦さん（鈴木彦次郎のこと）は葛西とは叔父甥の関係ながら事実上齢のはなれた兄のようにして育ちました。そのお陰で創設者の生い立ちや人物像が作家の筆で生き生きと描写されています（『葛西勝彌博士追悼集』1951）。

ちなみに、二人が育った盛岡は、最近ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2023年に行くべき52か所」でロンドンに続く2番目にランクされ、「見過ごされがちだが魅力ある街」とされています。偶然ですが、本誌2020・2021年度版の記事を参照すると、本寮との縁をたどって市内のツアーをすることができます。

その彦さんに、私はお会いしたことがあります。小学校の高学年のときに、浅岸というところにあつた相撲道場に通っていましたが、道場主で元大相撲力士花坂吉兵衛は、彦さんの親友でした。なにしろ旧制盛岡中学校で一緒に相撲部を起ちあげた仲です。その頃、盛岡中学校は、首相、大臣、大将はもとより学者、詩人、作家等、多くの人物を輩出して全国にその名を知られていました。そのようなエリート校を出て相撲部屋に入るのは異例で、よほど相撲が好きだったようです。花坂は自分と同じく小兵ながら名大関だった大ノ里を尊敬し、その取り

口を実践してもいました。知性抜群で、昭和10年に『相撲講本』という本を出版し、後に江田島の海軍兵学校の相撲教員も努めました。稽古用の白い締め込みで土俵の上に立つと、その気迫と気品が周囲を圧倒したものです。

彦さんは道場に来ると稽古場を少し覗き、隣接した花坂家に立ち寄るのが常でした。本号の黒沼芳朗さんの記事を読んで、裸の男同士がぶつかり合う花坂道場の激しい稽古とともに、陽だまりの縁側で少年のように話し込む二人の大先輩のことを思い出しました。遠いむかしの中津川という川の畔でのことです。

中島宏先生は、本法人の常務理事中島和彦さんのお兄さんで、寮の行事にもご参加いただいたことがあります。この度、兄弟そろっての記事掲載となりました。従兄弟同士の例はあったかも知れませんが、兄弟というのは初めてで、寮誌の歴史にまた厚みが加わりました。

本誌のカットは長いあいだ寮生の口町和香さんが担当していましたが、一昨年卒業後は、板橋咲奈さんをお願いしています。華麗な「咲奈ワールド」をお楽しみ下さい。

(小笠原 正明)



## 巖鷺寮誌 2022年度

---

2023年3月31日発行

編集委員：遠藤 志麻、高橋 元氣 (2003)、塚本 博隆 (1996)  
鈴木 文明 (1972)、大久保 勉 (1969)、○小笠原 正明 (1966)  
(括弧内は卒寮年、○印は編集長)

発行所：一般財団法人巖鷺寮

発行人：一般財団法人巖鷺寮・巖鷺寮一心会

〒060-0007 札幌市中央区北7条西18丁目 佐藤・新渡戸記念寮内

郵便振替 02740-1-19776 (加入者名：一心会 代表 小笠原 正明)

印刷所：(株)アイワード

---

© M. Ogasawara, 2023



## 一般財団法人巖鷺寮

〒060-0007 札幌市中央区北7条西18丁目4-23

ホームページ：<http://www.ganjuryo.jp/>

メールアドレス：[info@ganjuryo.jp](mailto:info@ganjuryo.jp)